資料１－２

名取川水系河川整備基本方針の変更について
＜参考資料＞

令和7年5月22日

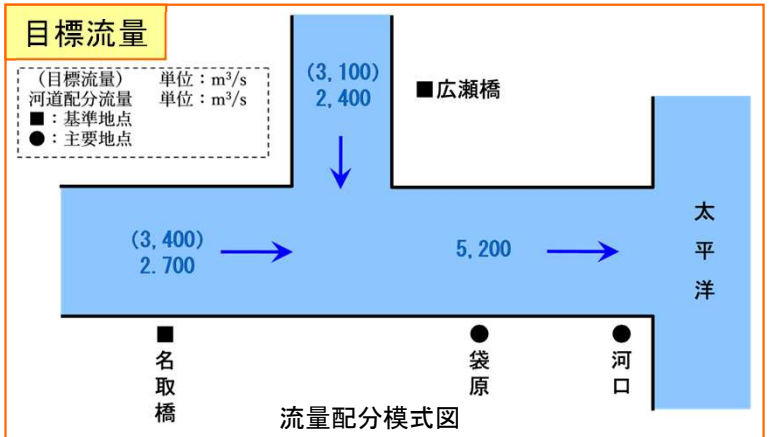
国土交通省　水管理･国土保全局

① 流域の概要

主な治水対策　河川整備計画（大臣管理区間）の概要　名取川水系

○ 現行の河川整備計画（大臣管理区間：平成24年11月変更）の目標流量は、戦後最大洪水である昭和25年８月洪水と同規模の洪水として、名取橋地点で3,400m³/s（河道配分流量2,700m³/s）、広瀬橋地点で3,100m³/s（河道配分流量2,400m³/s）と設定している。

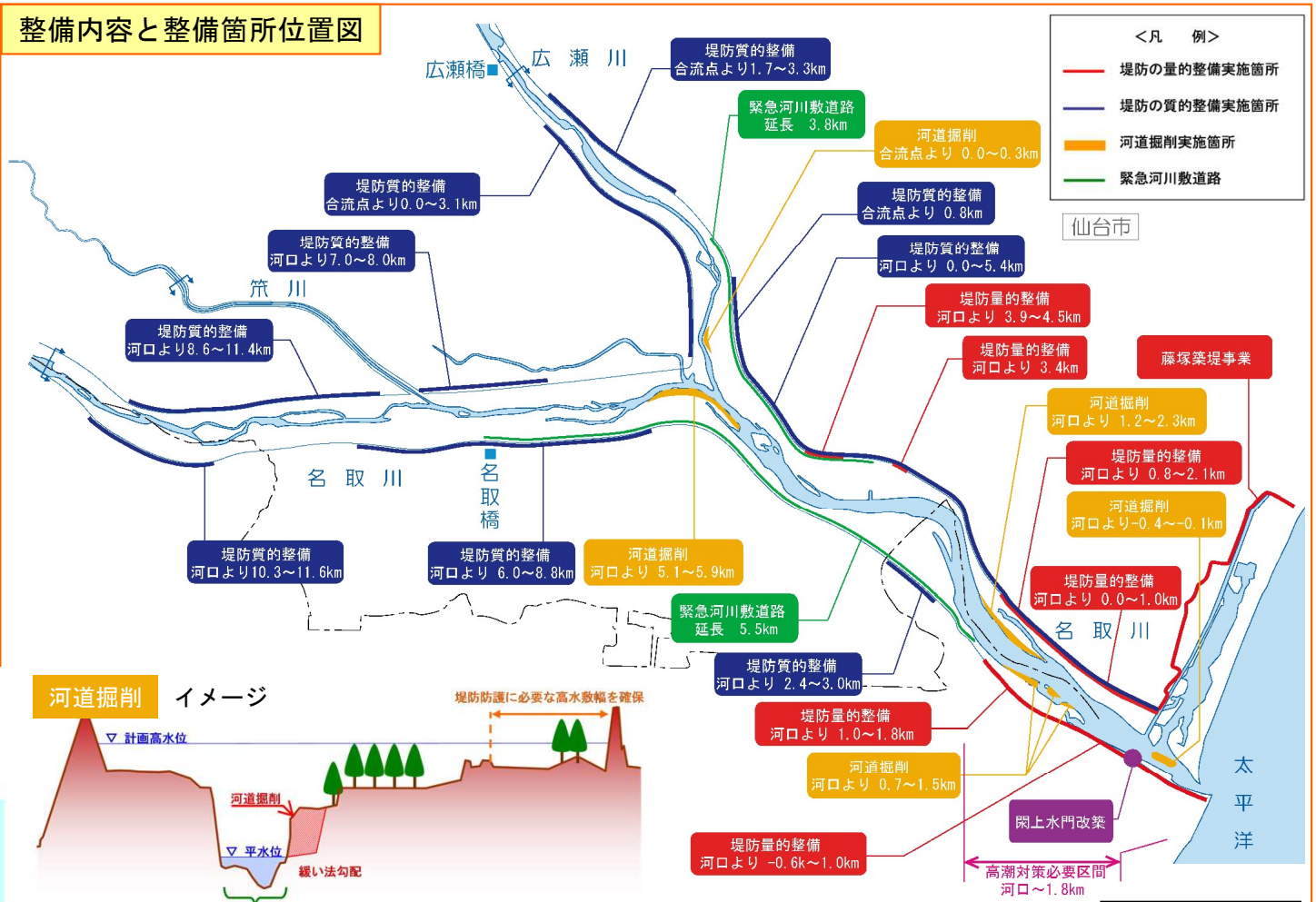
目標流量



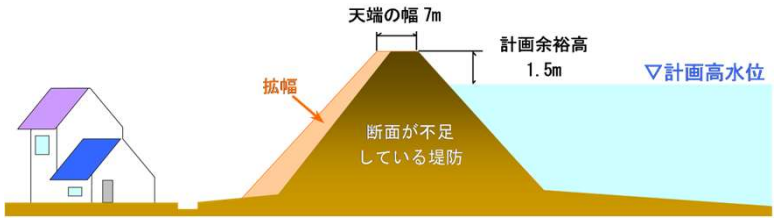
流量配分模式図

	名取川（名取橋地点）	広瀬川（広瀬橋地点）
対象洪水	昭和25年8月洪水	
目標流量	3,400m³/s	3,100m³/s
河道配分流量	2,700m³/s	2,400m³/s

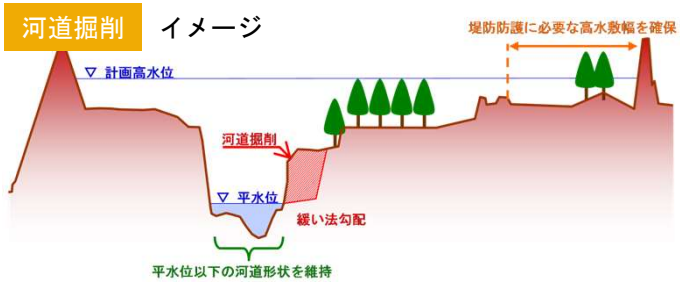
整備内容と整備箇所位置図



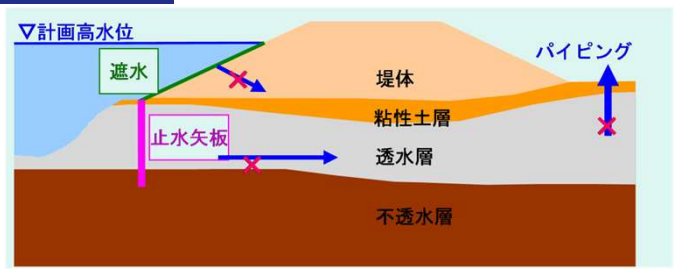
堤防の量的整備　イメージ（断面不足箇所における堤防の拡幅）



河道掘削　イメージ

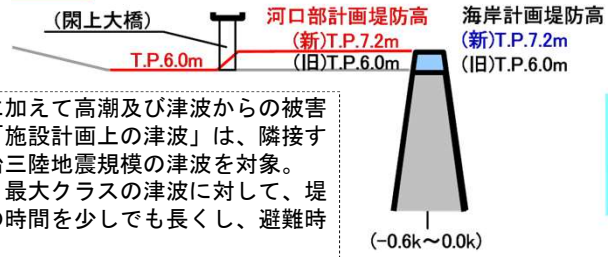


堤防の質的整備　イメージ（浸透対策）

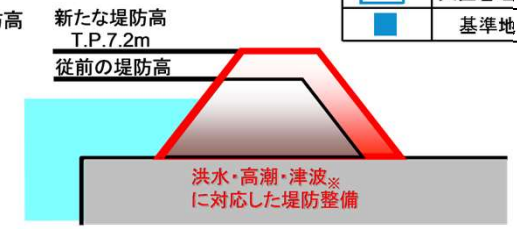


堤防の量的整備（河口部）

堤防縦断イメージ



堤防横断イメージ

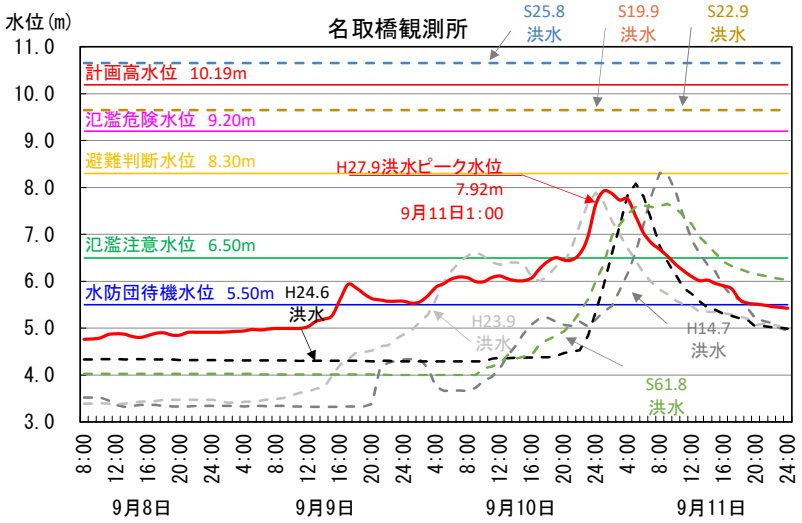


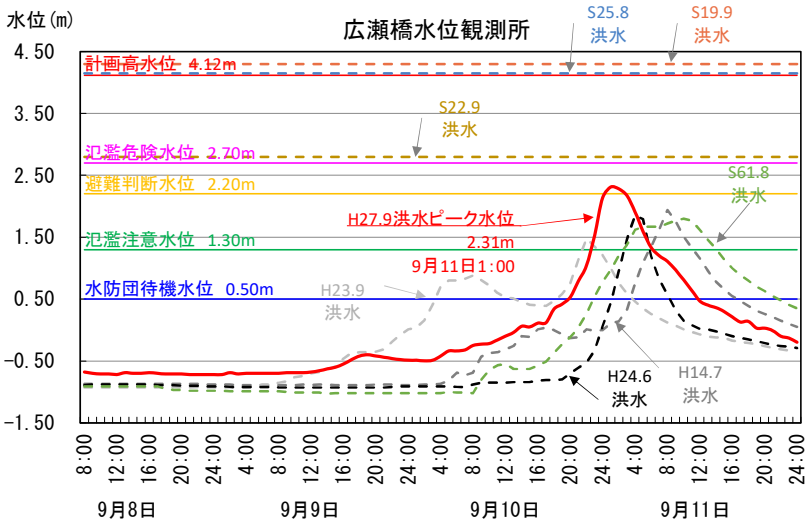
凡　例	
-·-·-	市町村界
↑↑	大臣管理区間
■	基準地点

- 河口部においては、洪水に加えて高潮及び津波からの被害の防止又は軽減を図る。「施設計画上の津波」は、隣接する海岸堤防計画と同じ明治三陸地震規模の津波を対象。
- 粘り強い堤防の構造とし、最大クラスの津波に対して、堤防が破壊、倒壊するまでの時間を少しでも長くし、避難時間を確保する。

〇平成27年９月関東・東北豪雨により、広瀬橋地点においては、昭和38年からの観測開始以降史上第１位の水位を観測した。
〇床上床下浸水162戸の他、護岸の損傷等の被害が確認された。

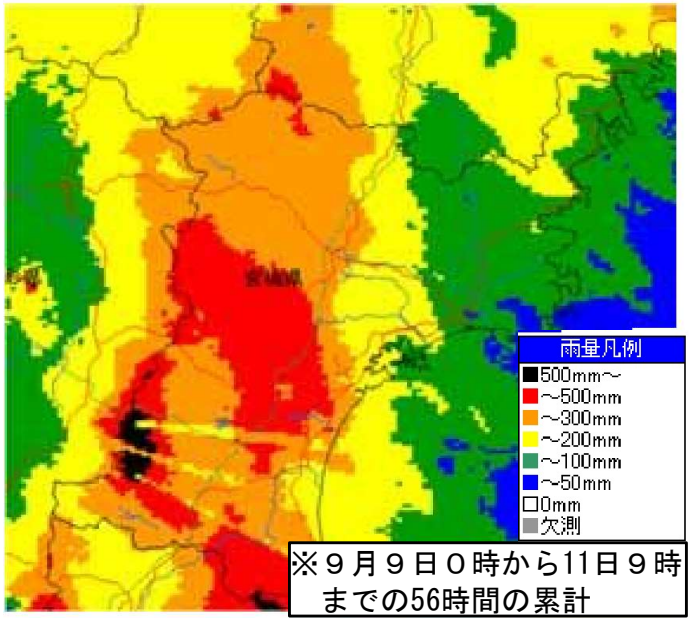
平成27年９月関東・東北豪雨観測所水位





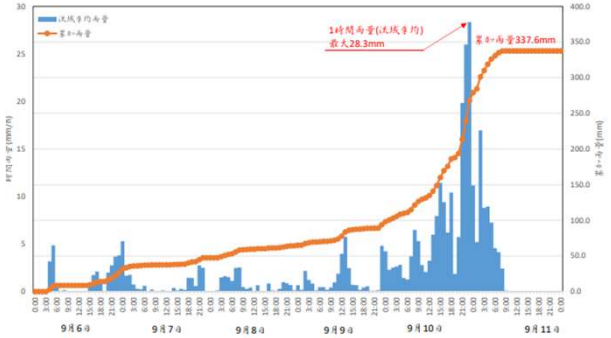
出典：平成27年9月11日出水の概要

平成27年９月関東・東北豪雨出水概況



※９月９日０時から11日９時までの56時間の累計

累加レーダー雨量
広瀬橋：　266.6mm/２d
（９月９日０時～11日９時までの累計）



平常時

※河川管理カメラより撮影

洪水時

名取川　名取橋（7.6k付近）

平常時

※河川管理カメラより撮影

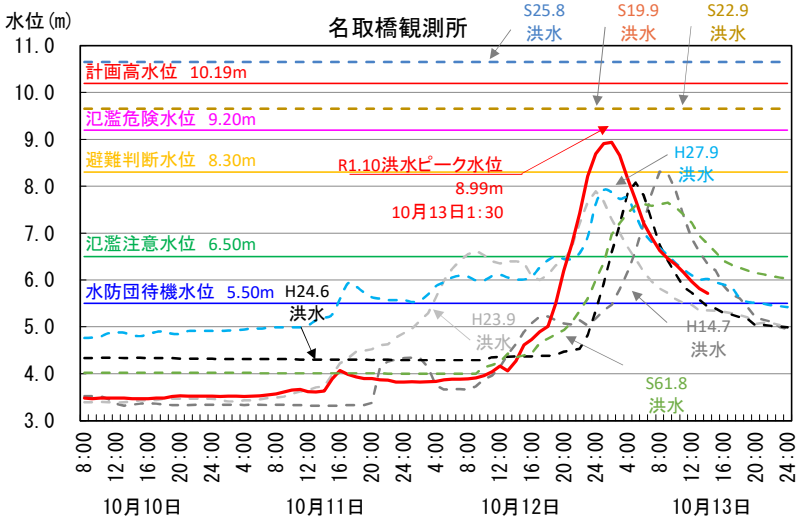
洪水時

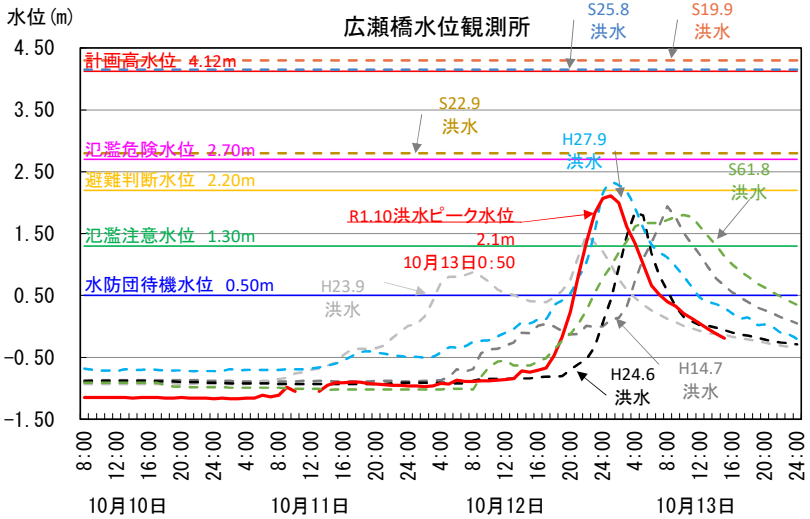
広瀬川　広瀬橋（3.6k付近）

出典：平成27年９月11日出水の概要

○令和元年東日本台風（台風第19号）による豪雨では名取橋地点においては、昭和43年からの観測開始以降史上第１位の水位を観測した。
　また、広瀬橋地点においては、観測史上第３位の水位を観測した。
○床上床下浸水1,258戸の他、堤防の法崩れ等の被害が確認された。

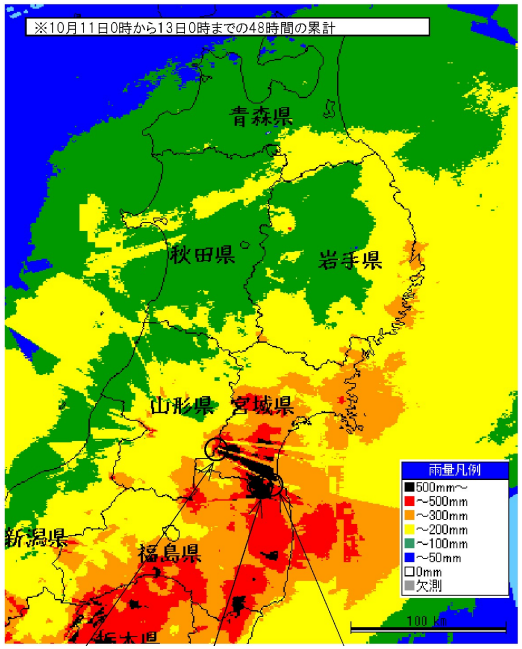
令和元年東日本台風観測所水位





出典：令和元年台風19号 出水の概要（第2報）

令和元年東日本台風出水概況



累加レーダー雨量
名取橋：297.4mm/２d
（10月11日０時～13日０時までの累計）

平常時

※河川管理カメラより撮影

洪水時

名取川　名取橋（7.6k付近）

平常時

※河川管理カメラより撮影

洪水時

広瀬川　広瀬橋（3.6k付近）

出典：令和元年第台風19号 出水の概要（第２報）

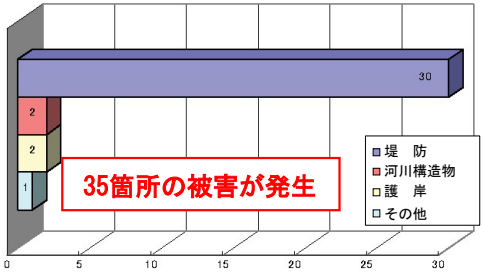
名取川水系の改修工事の歴史　地震・津波対策事業

○平成23年３月11日に発生した「東北地方太平洋沖地震」は、甚大な被害をもたらし、自然災害では戦後最大の規模となった。
○名取川においては、河口部で津波による堤防の崩壊・侵食が生じるなど、地震により河川管理施設に多数の被害が発生したが、平成29年度に河口部の堤防復旧が完了したことをもって、全箇所の復旧が完了している。

名取川の被災・復旧状況

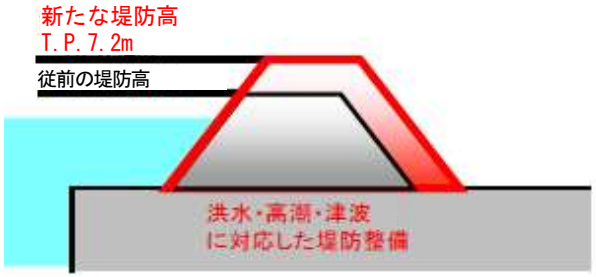
津波によって崩壊した堤防及び堤防復旧状況（右岸：閖上地区、左岸；藤塚地区）

▲完成式セレモニーの様子（平成29年12月３日）



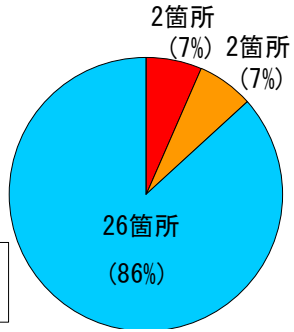
河川施設の被災状況

堤防被災状況及び堤防復旧状況
（右岸：閖上地区）

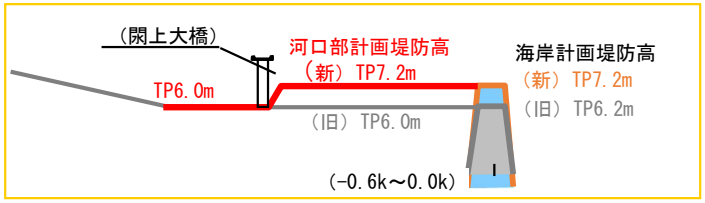


高潮・津波遡上に対応できる
堤防整備イメージ

・堤防が破壊、倒壊するまでの時間を少しでも長くし、避難時間を確保するため、ブロックの連結をかみ合わせ構造とし、津波時にブロックを浮き上がりにくくしている。
・法尻は地盤改良や基礎処理により、洗掘しにくい構造となっている。



堤防被災箇所における被災状況別箇所数



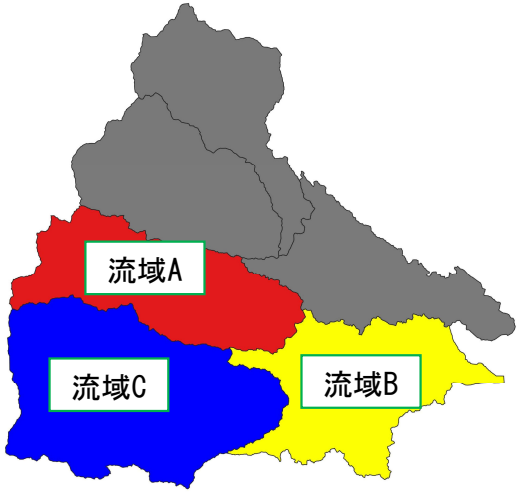
・河口部河川堤防高は海岸堤防と同じTP7.2mとし、将来の河道形状等を考慮して考えられる打ち上げ高が閖上大橋まで現計画を上回る可能性があるため、閖上大橋までの区間を海岸堤防高と同じ高さで設定した。

②基本高水のピーク流量の検討

棄却された実績引伸ばし降雨における発生の可能性検討（名取川・名取橋地点）　名取川水系

○ 気候変動による降雨パターンの変化により、これまでの手法で棄却されていた実績引伸ばし降雨波形の発生が十分予想される場合がある。このため、これまでの手法で棄却されていた実績引伸ばし降雨波形を、当該水系におけるアンサンブル予測降雨波形による降雨パターンと照らし合わせる等により再検証を実施する。
○ 空間分布のチェックとして、d2PDF（将来実験）から計画規模の降雨量近傍のアンサンブル予測降雨波形を抽出し、各波形について、降雨継続時間内の小流域の流域平均雨量／基準地点上流域平均雨量を求める（各小流域の基準地点上流域全体に対する雨量の比率）。
○ 時間分布のチェックとして、d2PDF（将来実験）から計画規模の降雨量近傍のアンサンブル予測降雨波形を抽出し、各波形について、短時間（例えば洪水到達時間の 1/2 時間）の流域平均雨量／洪水継続時間内の流域平均量を求める（短時間雨量と降雨継続時間雨量との比率）。
○ その結果、棄却した5降雨波形のうち、アンサンブル予測降雨から推定される時間分布、地域分布の雨量比以内に収まる洪水として、4降雨波形を棄却せず参考波形として活用。

棄却洪水におけるアンサンブル将来降雨波形を用いた検証



C流域等の流域平均雨量
（A B C）流域平均雨量

棄却した引き伸ばし降雨波形も同様に比率を求め、実績引き伸ばし降雨波形の比率が、アンサンブル予測降雨波形による比率と大きく逸脱していないか等のチェックを行う。

空間分布（小流域）のチェック

洪水名	名取橋上流域 445.16 km²	名取川上流域 122.74 km²		釜房ダム流域 196.05 km²		名取橋残流域 126.36 km²	
	予測雨量①（mm/12hr）	予測雨量②（mm/12hr）	比率②/①	予測雨量③（mm/12hr）	比率③/①	予測雨量④（mm/12hr）	比率④/①
HFB_2K_GF_m101_2079	290.8	155.8	0.54	356.9	1.23	326.2	1.12
HFB_2K_GF_m105_2075	245.3	330.5	1.35	203.7	0.83	230.1	0.94
HFB_2K_MI_m101_2086	245.1	109.2	0.45	335.5	1.37	267.0	1.09
HFB_2K_MI_m105_2066	248.5	292.0	1.18	263.3	1.06	252.0	1.01
HFB_2K_MI_m105_2087	270.4	191.5	0.71	317.9	1.18	275.7	1.02
HFB_2K_MR_m101_2064	251.2	154.1	0.61	339.0	1.35	209.2	0.83

各小流域の最大比率

時間分布（短時間降雨）のチェック

洪水名	名取橋上流域		
	12時間予測雨量①（mm/12hr）	6時間予測雨量⑨（mm/6hr）	比率⑨/①
HFB_2K_GF_m101_2079	290.8	196.8	0.68
HFB_2K_GF_m105_2075	245.3	140.2	0.57
HFB_2K_MI_m101_2086	245.1	145.9	0.60
HFB_2K_MI_m105_2066	248.5	168.7	0.68
HFB_2K_MI_m105_2087	270.4	185.0	0.68
HFB_2K_MR_m101_2064	251.2	201.2	0.80

最大比率

実績洪水	名取橋上流域 445.16 km2			名取川上流域 122.74 km²		釜房ダム流域 196.05 km²		名取橋残流域 126.36 km²	
	実績雨量（mm/12hr）	計画降雨量①（mm/12hr）	引伸ばし率	予測雨量②（mm/12hr）	比率②/①	予測雨量③（mm/12hr）	比率③/①	予測雨量④（mm/12hr）	比率④/①
昭和16年7月23日	173.9		1.814	294.0	0.93	396.5	1.26	210.1	0.67
昭和19年9月12日	201.6		1.564	303.4	0.96	280.3	0.89	381.1	1.21
昭和19年10月8日	157.4	315.4	2.004	315.3	1.00	315.3	1.00	315.3	1.00
平成元年8月7日	158.0		1.996	328.4	1.04	328.0	1.04	282.9	0.90
平成6年9月22日	168.1		1.876	223.1	0.71	209.9	0.67	568.6	1.80
平成24年6月20日	166.1		1.899	305.1	0.97	317.3	1.01	314.9	1.00

実績洪水	名取橋上流域		
	計画降雨量①（mm/12hr）	引伸ばし後6時間雨量⑨（mm/6hr）	比率⑨/①
昭和16年7月23日		207.6	0.66
昭和19年9月12日		239.6	0.76
昭和19年10月8日	315.4	236.8	0.75
平成元年8月7日		242.8	0.77
平成6年9月22日		239.8	0.76
平成24年6月20日		241.6	0.77

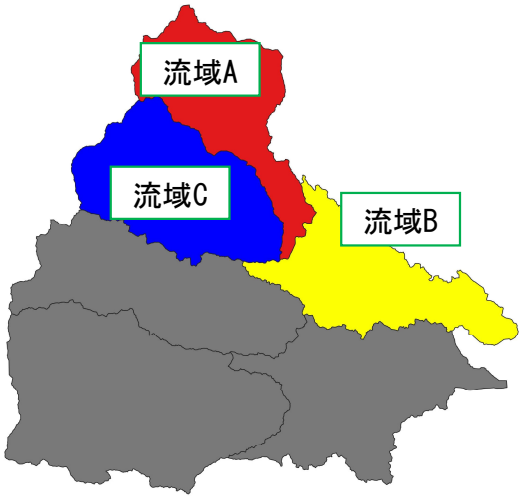
将来実験の降雨イベントによって算定された比率の最大値を超過

4波形を参考波形として活用

棄却された実績引伸ばし降雨における発生の可能性検討（広瀬川・広瀬橋地点）　名取川水系

○ 気候変動による降雨パターンの変化により、これまでの手法で棄却されていた実績引伸ばし降雨波形の発生が十分予想される場合がある。このため、これまでの手法で棄却されていた実績引伸ばし降雨波形を、当該水系におけるアンサンブル予測降雨波形による降雨パターンと照らし合わせる等により再検証を実施する。
○ 空間分布のチェックとして、d2PDF（将来実験）から計画規模の降雨量近傍のアンサンブル予測降雨波形を抽出し、各波形について、降雨継続時間内の小流域の流域平均雨量／基準地点上流域平均雨量を求める（各小流域の基準地点上流域全体に対する雨量の比率）。
○ 時間分布のチェックとして、d2PDF（将来実験）から計画規模の降雨量近傍のアンサンブル予測降雨波形を抽出し、各波形について、短時間（例えば洪水到達時間の 1/2 時間）の流域平均雨量／洪水継続時間内の流域平均量を求める（短時間雨量と降雨継続時間雨量との比率）。
○ その結果、棄却した5降雨波形のうち、アンサンブル予測降雨から推定される時間分布、地域分布の雨量比以内に収まる洪水として、4降雨波形を棄却せず参考波形として活用。

棄却洪水におけるアンサンブル将来降雨波形を用いた検証



C流域等の流域平均雨量
（A B C）流域平均雨量

棄却した引き伸ばし降雨波形も同様に比率を求め、実績引き伸ばし降雨波形の比率が、アンサンブル予測降雨波形による比率と大きく逸脱していないか等のチェックを行う。

空間分布（小流域）のチェック

洪水名	広瀬橋上流域 301.21 km²	大倉川流域 92.74 km²		広瀬川上残流域 114.19 km²		広瀬橋残流域 94.28 km²	
	予測雨量⑤ (mm/12hr)	予測雨量⑥ (mm/12hr)	比率⑥/⑤	予測雨量⑦ (mm/12hr)	比率⑦/⑤	予測雨量⑧ (mm/12hr)	比率⑧/⑤
HFB_2K_CC_m105_2086	239.7	150.6	0.63	244.0	1.02	331.6	1.38
HFB_2K_GF_m101_2084	399.6	466.8	1.17	379.6	0.95	369.2	0.92
HFB_2K_GF_m101_2086	251.1	237.2	0.94	252.3	1.00	266.0	1.06
HFB_2K_HA_m101_2075	263.4	425.2	1.61	188.2	0.71	192.9	0.73
HFB_2K_HA_m105_2079	271.1	338.2	1.25	239.1	0.88	244.6	0.90
HFB_2K_MI_m105_2066	284.2	272.0	0.96	317.5	1.12	313.6	1.10

各小流域の最大比率

時間分布（短時間降雨）のチェック

洪水名	広瀬橋上流域		
	12時間予測雨量⑤ (mm/12hr)	6時間予測雨量⑩ (mm/6hr)	比率⑩/⑤
HFB_2K_CC_m105_2086	239.7	166.8	0.70
HFB_2K_GF_m101_2084	399.6	346.0	0.87
HFB_2K_GF_m101_2086	251.1	160.5	0.64
HFB_2K_HA_m101_2075	263.4	174.3	0.66
HFB_2K_HA_m105_2079	271.1	193.3	0.71
HFB_2K_MI_m105_2066	284.2	194.2	0.68

最大比率

実績洪水	広瀬橋上流域 301.21 km2			大倉川流域 92.74 km²		広瀬川上残流域 114.19 km²		広瀬橋残流域 94.28 km²	
	実績雨量 (mm/12hr)	計画降雨量⑤ (mm/12hr)	引伸ばし率	予測雨量⑥ (mm/12hr)	比率 ⑥/⑤	予測雨量⑦ (mm/12hr)	比率 ⑦/⑤	予測雨量⑧ (mm/12hr)	比率 ⑧/⑤
昭和22年9月15日	165.2	319.9	1.936	327.4	1.02	294.1	0.92	343.0	1.07
昭和23年9月16日	175.0		1.828	242.1	0.76	283.3	0.89	441.6	1.38
昭和61年8月5日	178.0		1.797	306.2	0.96	264.7	0.83	400.2	1.25
平成27年9月11日	153.6		2.083	330.7	1.03	251.9	0.79	398.5	1.25
令和元年10月13日	186.6		1.714	300.7	0.94	224.5	0.70	454.7	1.42

実績洪水	広瀬橋上流域		
	計画降雨量⑤ (mm/12hr)	引伸ばし後 6時間雨量⑩ (mm/6hr)	比率 ⑩/⑤
昭和22年9月15日	319.9	238.0	0.74
昭和23年9月16日		237.5	0.74
昭和61年8月5日		181.3	0.57
平成27年9月11日		226.1	0.71
令和元年10月13日		240.7	0.75

将来実験の降雨イベントによって算定された比率の最大値を超過

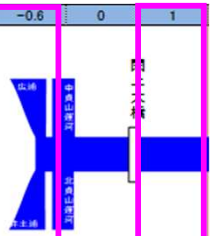
4波形を参考波形として活用

⑤河川環境・河川利用についての検討

河川環境の整備と保全　現状分析と目標設定（生息場の分布、相対評価）【名取川河口部】　名取川水系

○ 河口～2kまでの名取川河口部は汽水域となっており、左岸の井土浦は、生物多様性の観点から環境省の「日本の重要湿地500」に選定されている。
○ 右岸部は、「閖上地区かわまちづくり」により親水護岸等の水辺空間の整備が行われ、左岸部は、「藤塚地区かわまちづくり」により河川特有の自然環境や水辺空間とふれあえる施設の整備が予定されている。

■ 河川環境管理シート（令和６年度更新）

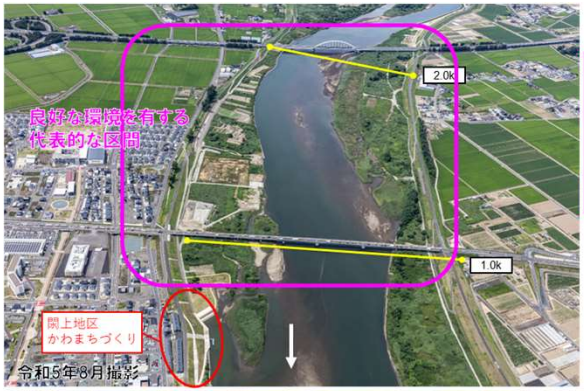
距離標（空間単位：1km※）		-0.6	0	1
※距離標1：1～2km区間				
略図				
河川環境区分			区分1	
河川区分	河川区分	河口部（汽水域）		
	大セグメント区分			
	小セグメント区分		2-2-①	
	堤内地の景観　右岸側	港湾	住宅地等	耕作地等
	堤内地の景観　左岸側	未利用地	住宅地等	耕作地、住宅
主なセグメント形成要因	周辺の地形・地質		砂堤列平野	
	河床勾配（平均河床高）	1/2,800		
	河床材料			
	川幅（河道幅・水面幅）		河道幅	水
		-1	0	1
	横断工作物			
	支川の合流			
	特徴的な狭窄部	なし		

生息場データ（環境要素）

距離標（空間単位：1km）		-0.6	0	1
典型性 陸域	1. 低・中茎草地	△	○	○
	2. 河辺性の樹林・河畔林	－	－	－
	3. 自然裸地	－	－	－
	4. 外来植物生育地	△	△	△
典型性 水際域	5. 水生植物帯	－	－	－
	6. 水際の自然度	△	△	○
	7. 水際の複雑さ	○	○	○
典型性 水域	8. 連続する瀬と淵	－	－	－
	9. ワンド・たまり			○
	10. 湛水域	－	－	－
典型性 汽水	11. 干潟	○	△	
	12. ヨシ原	△	○	○
特殊性	礫河原の植生域	－	－	－
	湧水地	－	－	－
	海浜植生帯			
	塩沼湿地	○	○	○
生息場の多様性の評価値		2	3	5

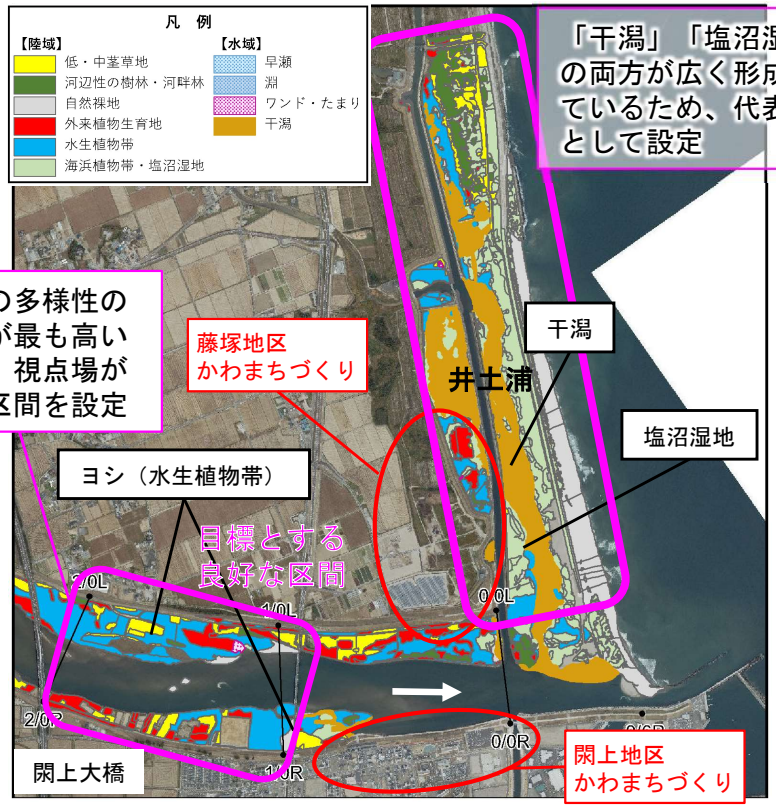
良好な環境を有する代表的な区間

河川環境の現状	● 名取川河口部の水際には0～2.0kにヨシ等の水生植物帯が広がり、オオヨシキリの生息・繁殖環境となっている。-0.6k～0kに見られる干潟の砂泥底は、エドハゼの生息・繁殖環境となっている。 ● 名取川河口部左岸の井土浦は、シオクグ等の海浜植物帯が生育する塩沼湿地といった特有の環境が存在し、広大な干潟はハマシギなどの渡り鳥の中継地・越冬地となっている。
保全・創出	● 名取川河口部のオオヨシキリが生息・繁殖する水生植物帯（ヨシ原）や、エドハゼが生息・繁殖する干潟の保全・創出を図る。 ● 名取川河口部左岸の井土浦では、シオクグ等の海浜植物帯が生育する塩沼湿地、ハマシギなど渡り鳥の中継地・越冬地となっている干潟環境を保全する。



生息場の多様性の評価値が最も高い区間で、視点場がある1k区間を設定

■ 河川環境情報図（令和２年度データ）



河川環境の整備と保全　現状分析と目標設定（生息場の分布、相対評価）【名取川下流部①】名取川水系

○ 名取川下流部①は、周辺に水田や住宅地が広がっており、河床勾配は1/2,800と流れは緩やかで、ワンドが存在する。

■ 河川環境管理シート（令和6年度更新）

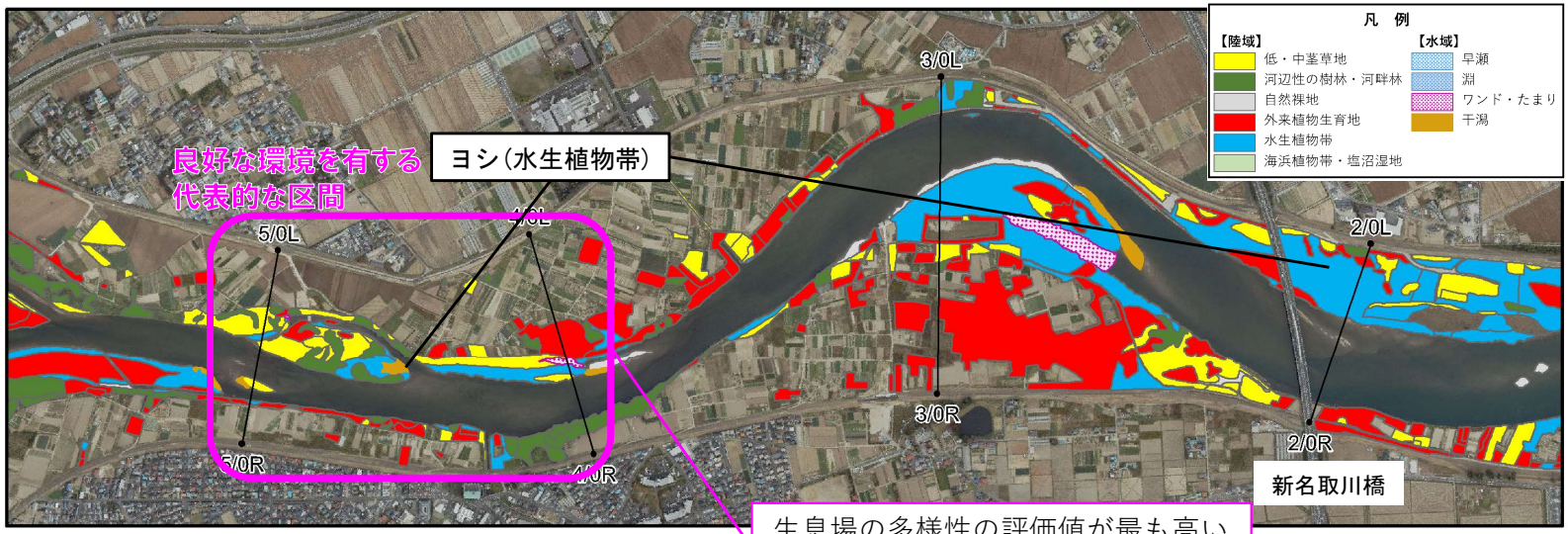
距離標（空間単位：1km※）	2	3	4
※距離標1：1～2km区間			
略図	名取川橋		
河川環境区分	**区分2**		
河川区分	下流域		
大セグメント区分	セグメント2-2		
小セグメント区分	2-2-①		
堤内地の景観　右岸側	耕作地等		
堤内地の景観　左岸側	耕作地、住宅地等		
周辺の地形・地質	自然堤防帯		
河床勾配（平均河床高）	1/2,800		
河床材料	細砂・シル		
川幅（河道幅・水面幅）	河道幅		
横断工作物			
支川の合流			
特徴的な狭窄部			
距離標（空間単位：1km）	2	3	4
典型性 陸域 1. 低・中茎草地	○	△	△
典型性 陸域 2. 河辺性の樹林・河畔林	△	○	○
典型性 陸域 3. 自然裸地	△	△	
典型性 陸域 4. 外来植物生育地	×	×	△
典型性 水際域 5. 水生植物帯	○	△	○
典型性 水際域 6. 水際の自然度	△	△	○
典型性 水際域 7. 水際の複雑さ	○	△	○
典型性 水域 8. 連続する瀬と淵	－	－	－
典型性 水域 9. ワンド・たまり	○	△	○
典型性 水域 10. 湛水域			
典型性 汽水 11. 干潟	－	－	－
典型性 汽水 12. ヨシ原	－	－	－
特殊性 礫河原の植生域	－	－	－
特殊性 湧水地			
特殊性 海浜植生帯	－	－	－
特殊性 塩沼湿地	－	－	－
生息場の多様性の評価値	3	0	5

生息場データ（環境要素）

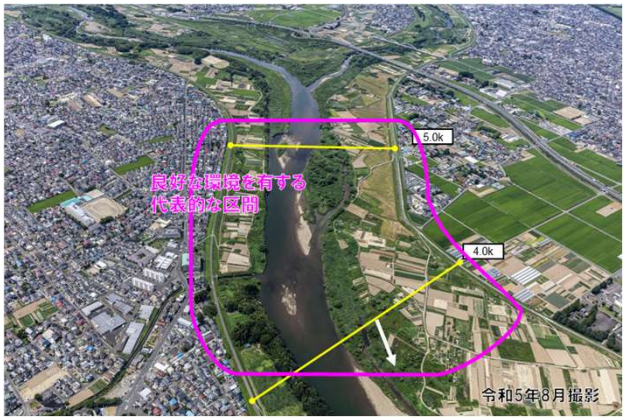
良好な環境を有する代表的な区間

河川環境の現状	● 名取川2.0～5.0k付近の水際にヨシ等の水生植物帯が存在し、オオヨシキリの生息・繁殖環境となっている。
保全・創出	● オオヨシキリが生息・繁殖する水生植物帯の保全・創出を図る。

■ 河川環境情報図（令和2年度データ）

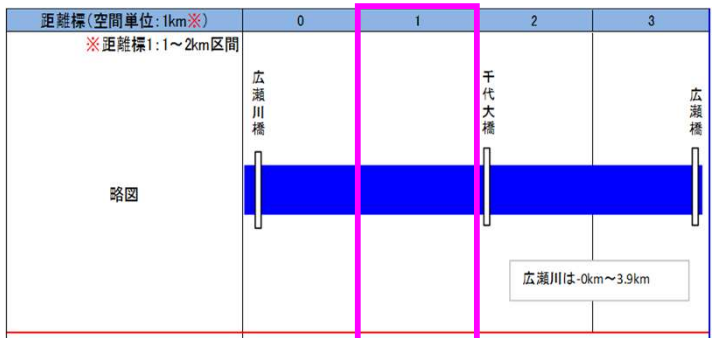


生息場の多様性の評価値が最も高い、4k区間を設定



○ 支川広瀬川は、周辺に市街地が広がっており、河川敷には公園やグラウンド等の人工的な利用も見られる。

■ 河川環境管理シート（令和6年度更新）



河川環境区分		区分4
河川区分	河川区分	中流域
	大セグメント区分	セグメント2-1
	小セグメント区分	2-1-①
	堤内地の景観　右岸側	住宅地等
	堤内地の景観　左岸側	住宅地等
主なセグメント形成要因	周辺の地形・地質	自然堤防帯
	河床勾配（平均河床高）	1/170
	河床材料	砂～礫等
	川幅（河道幅・水面幅）	
	横断工作物	なし
	支川の合流	なし

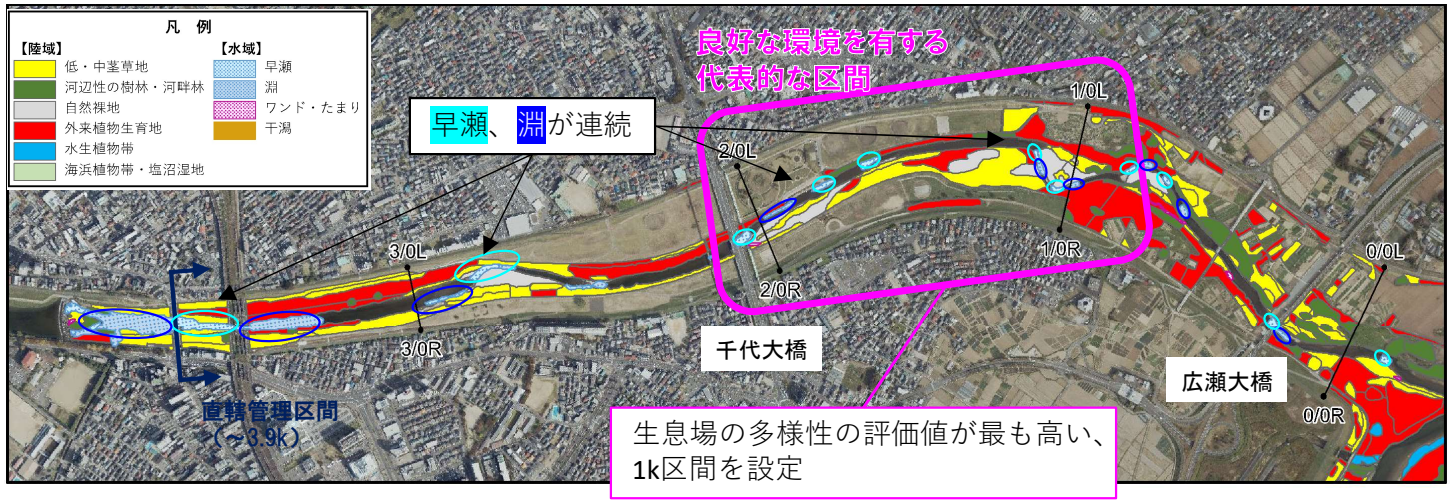
生息場データ（環境要素）

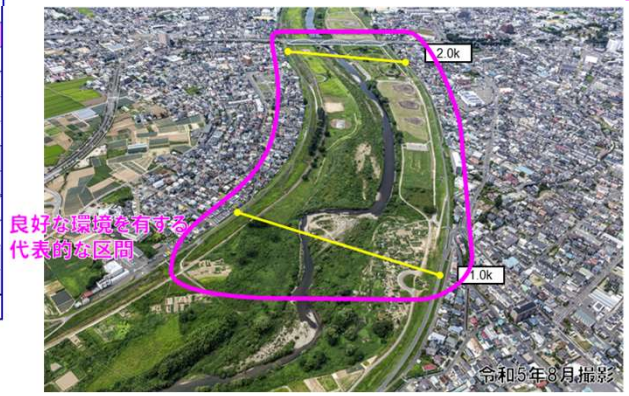
距離標（空間単位：1km）		0	1	2	3
典型性	陸域 1. 低・中茎草地	○	○	△	△
	陸域 2. 河辺性の樹林・河畔林	○	○		△
	陸域 3. 自然裸地	△	○	○	
	陸域 4. 外来植物生育地	×	△	△	×
	水際域 5. 水生植物帯	△	○	○	△
	水際域 6. 水際の自然度	○	○	○	○
	水際域 7. 水際の複雑さ	○	○	△	△
	水域 8. 連続する瀬と淵	△	△	○	△
	水域 9. ワンド・たまり	○		△	
	水域 10. 湛水域				
	汽水 11. 干潟	－	－	－	－
	汽水 12. ヨシ原	－	－	－	－
特殊性	礫河原の植生域				
	湧水地				
	海浜植生帯	－	－	－	－
	塩沼湿地	－	－	－	－
生息場の多様性の評価値		4	6	4	0

良好な環境を有する代表的な区間

河川環境の現状	● 広瀬川1.0～3.0k付近に点在する砂礫河原は、イカルチドリの生息・繁殖環境となっている。 ● 広瀬川1.0～3.0k付近には瀬・淵が交互に連続し、早瀬の礫底を利用するアユや、淵の石を隠れ場所とするギバチの生息・繁殖環境となっている。
保全・創出	● アユ、ギバチが生息・繁殖する瀬・淵や、イカルチドリが生息・繁殖する砂礫河原の保全・創出を図る。

■ 河川環境情報図（令和2年度データ）





○ 支川笊川は、人工的に開削された流路であり、周辺には市街地が広がり比較的単調な環境となっている。

■ 河川環境管理シート（令和6年度更新）

距離標（空間単位：1km※）	0	1	2
※距離標1：1～2km区間			
略図	新笊川大橋 / 太白大橋 / 皿屋敷橋	富沢南橋 / 杉の下橋	熊野舎橋 / 唐松橋
	笊川は0k～2.5km		
河川環境区分	**区分5**		
河川区分	中流域		
大セグメント区分	セグメント2-1		
小セグメント区分	2-1①		
堤内地の景観　右岸側	住宅地等		
堤内地の景観　左岸側	住宅地等		
主なセグメント形成要因：周辺の地形・地質	自然堤防帯		
河床勾配（平均河床高）	1/250		
河床材料	砂～礫等		
川幅（河道幅・水面幅）			
横断工作物	なし		
支川の合流	なし		
特徴的な狭窄部	なし		

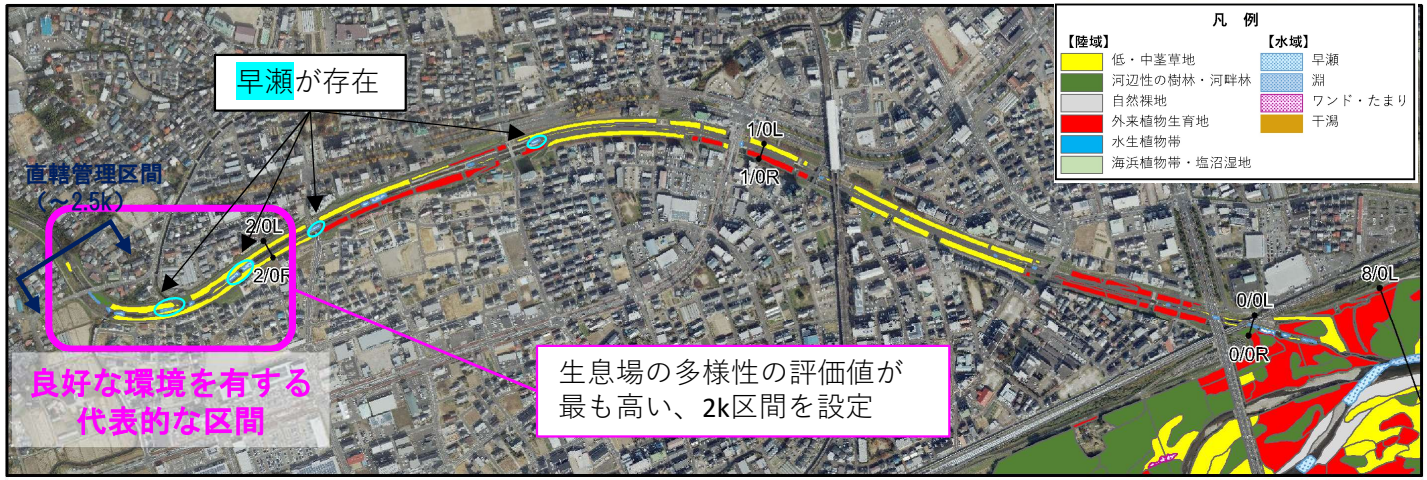
生息場データ（環境要素）

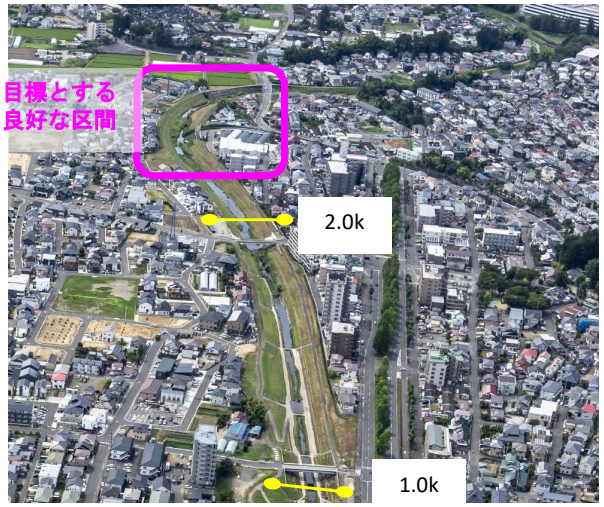
距離標（空間単位：1km）			0	1	2
典型性	陸域	1. 低・中茎草地	○	○	△
		2. 河辺性の樹林・河畔林			
		3. 自然裸地			
		4. 外来植物生育地	×	×	△
	水際域	5. 水生植物帯			
		6. 水際の自然度	○	△	○
		7. 水際の複雑さ	△	○	○
	水域	8. 連続する瀬と淵	△	△	○
		9. ワンド・たまり			
		10. 湛水域			
	汽水	11. 干潟	－	－	－
		12. ヨシ原	－	－	－
特殊性		礫河原の植生域			
		湧水地			
		海浜植生帯	－	－	－
		塩沼湿地	－	－	－
生息場の多様性の評価値			1	1	3

良好な環境を有する代表的な区間

河川環境の現状	● 笊川2.0k付近に瀬が存在し、早瀬の礫底を産卵環境とするウグイが生息している。
保全・創出	● ウグイ等の生息・繁殖する瀬の保全を図る。

■ 河川環境情報図（令和2年度データ）





【参考】本文掲載種の根拠資料（1/3）

本文新旧対照表No.	本文（一部抜粋）	掲載種の確認状況			根拠資料
		掲載種名	時期	地区・地点	
11	河川周辺には断崖や絶壁が続く壮大な峡谷景観が見られ、ブナやミズナラを主体とした夏緑広葉樹林が分布し、環境省が選定した特定植物群落のうち「蔵王山の植物群落」が存在する。河川や谷筋にはサワグルミやトチノキ、カエデ類などからなる渓畔林が分布している。 また、ニホンカモシカやニホンザル、ツキノワグマなどの哺乳類、イヌワシやクマタカなどの鳥類の生息が確認されている。 山地渓流の様相を呈する河川には、イワナやヤマメ、カジカ、ウグイなどが生息している。	ブナ	H11～H16年度(1999～2004年度)(第6回)、H17年度(2005年度)(第7回)※統合版	上流部	自然環境調査Web-GIS_環境省植生図
		ミズナラ			
		サワグルミ			
		トチノキ			
		カエデ類			
		ニホンカモシカ	H11～H16年度(1999～2004年度)(第6回)	上流部	自然環境調査Web-GIS_動物
		ニホンザル			
		ツキノワグマ			
		イヌワシ	S53～S55(1978～1950年)(第2回)	上流部	自然環境調査Web-GIS_動物
		クマタカ			
		イワナ	H5～H11(1993～1999年)(第5回)	上流部	自然環境調査Web-GIS_動物
		ヤマメ			
		カジカ			
		ウグイ			
12	河川周辺には国及び宮城県が指定する天然記念物「青葉山」や仙台市が指定する天然記念物「セコイヤ類の化石林」が存在し、コナラやアカマツなどの二次林、スギの植林のほか、ケヤキやカエデ、オニグルミ類など渓畔林が分布している。河川沿いの一部は水田や畑地等で利用され、草本の植生も分布している。 また、ニホンカモシカやツキノワグマなどの哺乳類、オオタカやオオルリ、キビタキ、オシドリ、チョウゲンボウのほか、「残したい日本の音風景百選」に選定されている鳴き声の美しいセキレイやカワセミ、ヤマセミなどの鳥類、カジカガエルなどの両生類が生息している。 河川には、アユやウグイ、カジカ、ヤマメ、オイカワ、アブラハヤなどの魚類が生息している。	コナラ	H11～H16年度(1999～2004年度)(第6回)、H17年度(2005年度)(第7回)※統合版	中流部	自然環境調査Web-GIS_環境省植生図
		アカマツ			
		スギ			
		ケヤキ			
		カエデ			
		オニグルミ類			
		ニホンカモシカ	H11～H16年度(1999～2004年度)(第6回)	中流部	自然環境調査Web-GIS_動物
		ツキノワグマ			
		オオタカ	S53～S55(1978～1950年)(第2回)	中流部	自然環境調査Web-GIS_動物
		オオルリ			
		キビタキ			
		オシドリ			
		チョウゲンボウ			
		セキレイ			
		カワセミ			
		ヤマセミ			
		カジカガエル	H5～H11(1993～1999年)(第5回)	中流部	自然環境調査Web-GIS_動物
		アユ			
		ウグイ			
		カジカ			
		ヤマメ			
		オイカワ			
		アブラハヤ			

【参考】本文掲載種の根拠資料（2/3）

本文新旧対照表No.	本文（一部抜粋）	掲載種の確認状況			根拠資料
		掲載種名	時期	地区・地点	
13	河川には植栽種や外来種のほか、ヨシやオギからなる高茎草本群落やヤナギ林などが分布している。 また、ネズミ類などの哺乳類、チュウサギやコミミズク、オオヨシキリのほか、砂礫河原を利用するイカルチドリなどの鳥類の生息が確認されており、スズメやトビなどのねぐらも確認されている。 河川では、早瀬の一部がアユやウグイ、マルタなどの産卵場となっているほか、コイやギンブナなどのコイ科やヨシノボリ類などのハゼ科やボラ、淵ではギバチの生息が確認されている。	ヨシ	R2（水国：河川環境基図作成調査）	名取川：3.6km付近（下流部①）	R1年度水国報告書：河川環境基図
		オギ	R2（水国：河川環境基図作成調査）	名取川：7.0km付近（下流部②付近）	R1年度水国報告書：河川環境基図
		ヤナギ	R2（水国：河川環境基図作成調査）	名取川：1～12km 広瀬川：0～1,3～4km	R1年度水国報告書：河川環境基図
		チュウサギ	H8	名取川：5.6k	河川水辺の国勢調査（H8）鳥類調査報告書
		コミミズク	H13	名取川：1k	河川水辺の国勢調査（H13）鳥類調査報告書
		オオヨシキリ	H3～H28	名取川全区間	河川環境管理シート：河川環境区分シート 河川水辺の国勢調査（H3～H27）鳥類調査報告書
		イカルチドリ	H3～H28	名取川：5.0～12.0km	河川環境管理シート：河川環境区分シート 河川水辺の国勢調査（H3～H27）鳥類調査報告書
		スズメ	H3～H28	名取川全区間	河川環境管理シート：河川環境区分シート 河川水辺の国勢調査（H3～H27）鳥類調査報告書
		トビ	H3～H28	名取川全区間	河川環境管理シート：河川環境区分シート 河川水辺の国勢調査（H3～H27）鳥類調査報告書
		アユ	H2～R4	名取川：0.0～1.0km、5km、7km	河川環境管理シート：河川環境区分シート 河川水辺の国勢調査（H2～R3）魚類調査報告書
		ウグイ	R4	下流部	河川水辺の国勢調査（R3）魚類調査報告書
		マルタ	R4	下流部	河川水辺の国勢調査（R3）魚類調査報告書
		コイ	R4	下流部	河川水辺の国勢調査（R3）魚類調査報告書
		ギンブナ	R4	下流部	河川水辺の国勢調査（R3）魚類調査報告書
		ヨシノボリ	R4	下流部	河川水辺の国勢調査（R3）魚類調査報告書
		ボラ	R4	下流部	河川水辺の国勢調査（R3）魚類調査報告書
		ギバチ	R4	下流部	河川水辺の国勢調査（R3）魚類調査報告書
14	汽水域の湿地に生息するヒヌマイトトンボのほか、周辺の防風林ではオオタカの生息が確認されていた。 その後、北導流堤の復旧や海岸堤防の整備により、河口部の砂州や砂浜が回復し、海浜草原で確認されていたハマニンニクやコウボウムギ、ケカモノハシ、塩性湿地で確認されていたアイアシやシオクグなどの植物が回復してきている。 また、シギやチドリ類のほか、井土浦の一部で回復したヨシ原ではヨシゴイやオオヨシキリなどの鳥類の生息が確認されている。周辺に残存したクロマツ林ではオオタカが継続的に生息し、繁殖行動も確認されている。 河川では、淡水性魚類のほか、海域や汽水域に生息するコノシロやサッパ、エドハゼなどのハゼ科魚類の生息が継続的に確認されている。	ヒヌマイトトンボ	2008年	井土浦・広浦	名取川流域水循環計画(第2期)R3年3月宮城県p29
		オオタカ	H28（水国：鳥類調査）	名取川、広瀬川	H28年度水国報告書（整-19）
		ハマニンニク	R5	井土浦	河川水辺の国勢調査（R5）植物相調査報告書
		コウボウムギ	R5	井土浦	河川水辺の国勢調査（R5）植物相調査報告書
		ケカモノハシ	R5	井土浦	河川水辺の国勢調査（R5）植物相調査報告書
		アイアシ	R5	井土浦	河川水辺の国勢調査（R5）植物相調査報告書
		シオクグ	R5	井土浦	河川水辺の国勢調査（R5）植物相調査報告書
		シギ	H3、H18、H26、H28	井土浦	H3、H18、H28：河川水辺の国勢調査（H17、H27）鳥類調査報告書 H26：被災域水辺環境調査（H26）報告書
		チドリ類	H3、H18、H26、H28	井土浦	H3、H18、H28：河川水辺の国勢調査（H17、H27）鳥類調査報告書 H26：被災域水辺環境調査（H26）報告書
		ヨシゴイ	H13	名取川：1k	河川水辺の国勢調査（H13）鳥類調査報告書
		オオヨシキリ	H3～H28	名取川全区間	河川環境管理シート：河川環境区分シート 河川水辺の国勢調査（H3～H27）鳥類調査報告書
		コノシロ	R4	下流部	河川水辺の国勢調査（R3）魚類調査報告書
		サッパ	H13	名取川：1k	河川水辺の国勢調査（H13）鳥類調査報告書
		エドハゼ	H9～H19、R4	名取川：0km、井戸浦	河川環境管理シート：河川環境区分シート 河川水辺の国勢調査（H9～H14, R3）魚類調査報告書

【参考】本文掲載種の根拠資料（3/3）

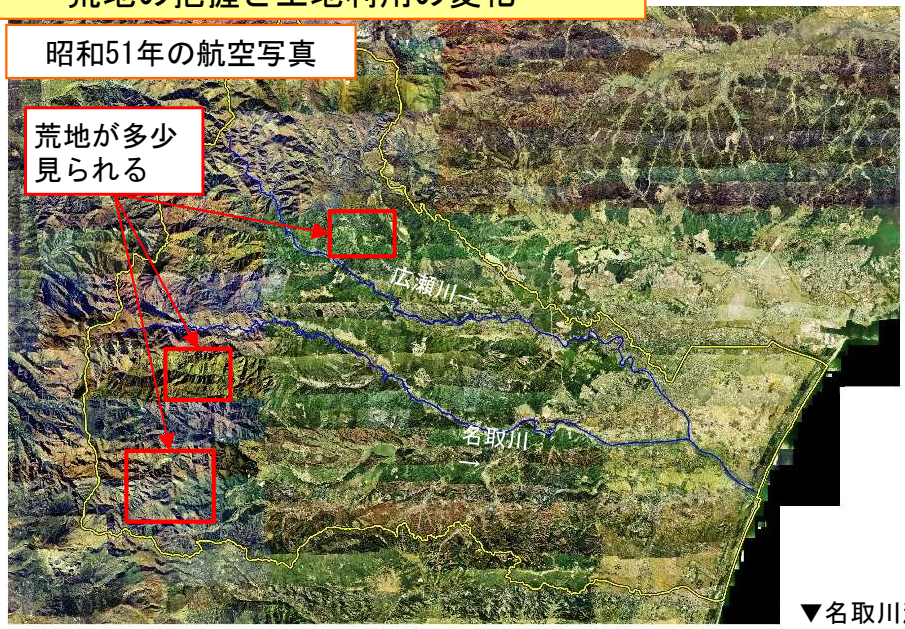
本文新旧対照表No.	本文（一部抜粋）	掲載種の確認状況			根拠資料
		掲載種名	時期	地区・地点	
15	特定外来生物として、植物では、名取川及び広瀬川の下流部において、アレチウリやオオカワヂシャ、オオキンケイギクが広く分布しているほか、河口部を中心にオオハンゴンソウが繁茂している。高水敷にはセイタカアワダチソウやハリエンジュなどが広範囲に分布しており、在来種への影響が懸念されている。 魚類ではブルーギルやオオクチバスが継続的に生息し、コクチバスの生息も確認されている。また、両生類ではウシガエル、鳥類ではガビチョウの生息も確認されている。	アレチウリ	H7～R5	全川	H22、H26、R1年度水国報告書：河川環境基図
		オオカワヂシャ	R2～R5	全川	河川水辺の国勢調査（H12）植物相調査報告書
		オオキンケイギク	H7～H12、R2～R5	全川	河川水辺の国勢調査（H17、H25、R5）植物相調査報告書
		オオハンゴンソウ	H7～H17、H25～R5	全川	河川水辺の国勢調査（H17、H25、R5）植物相調査報告書
		セイタカアワダチソウ	H27、R2（水国：河川環境基図作成調査）	（名取川）	H26、R1年度水国報告書：河川環境基図
		ハリエンジュ	H7～R5	全川	H22、H26、R1年度水国報告書：河川環境基図
		ブルーギル	H14～H24、R4	全川	河川水辺の国勢調査（H4～R3）魚類調査報告書
		オオクチバス	H4～R4	全川	河川水辺の国勢調査（H4～R3）魚類調査報告書
		コクチバス	H29～R4	全川	河川水辺の国勢調査（H4～R3）魚類調査報告書
		ウシガエル	H6、H16～R3	全川	河川水辺の国勢調査（H25、R2）両生類・爬虫類・哺乳類調査報告書
		ガビチョウ	H28	全川	河川水辺の国勢調査（H27）鳥類調査報告書
75	動植物の生息・生育・繁殖環境の保全・創出については、名取川、広瀬川の下流部では、ヤナギ林をはじめ、樹林、草地の連続性の保全・創出を図るとともに、オオヨシキリが生息・繁殖する水生植物帯の保全・創出を図る。また、アユやギバチが生息・繁殖する瀬・淵や、イカルチドリが生息・繁殖する砂礫河原の保全・創出を図る。支川笊川では、ウグイ等の生息・繁殖する瀬の保全・創出を図る。 河口部では、オオヨシキリが生息・繁殖する水生植物帯や、エドハゼが生息・繁殖する干潟環境の保全・創出を図る。	オオヨシキリ	H3～H28	名取川全区間	河川環境管理シート：河川環境区分シート 河川水辺の国勢調査（H3～H27）鳥類調査報告書
		アユ	H2～R4	名取川：0.0～1.0km、5km、7km	河川環境管理シート：河川環境区分シート 河川水辺の国勢調査（H2～R3）魚類調査報告書
		ギバチ	R4	下流部	河川水辺の国勢調査（R3）魚類調査報告書
		イカルチドリ	H3～H28	名取川：5.0～12.0km	河川環境管理シート：河川環境区分シート 河川水辺の国勢調査（H3～H27）鳥類調査報告書
		ウグイ	R4	下流部	河川水辺の国勢調査（R3）魚類調査報告書
		エドハゼ	H9～H19、R4	名取川：0km、井戸浦	河川環境管理シート：河川環境区分シート 河川水辺の国勢調査（H9～H14, R3）魚類調査報告書
76	また、典型的なラグーン（潟湖）である井土浦では、シオクグなどの海浜植物が生育する塩沼湿地、ハマシギなど渡り鳥の中継地・越冬地となっている干潟環境の保全を図る。なお、多様な汽水魚や海水魚が生息し、ハマナスやアイアシなどの貴重な砂丘植物・水生植物が分布していた環境は、東北地方太平洋沖地震による広域的な地盤沈下及び津波により大きく変化したが、回復傾向にあり、引き続き継続的に調査し、必要に応じて保全・創出措置等を講ずる。	シオクグ	R2（水国：河川環境基図作成調査）	井土浦	R1年度水国報告書：河川環境基図
		ハマシギ	H3、H18、H26、H28	井土浦	H3、H18、H28：河川水辺の国勢調査（H17、H27）鳥類調査報告書 H26：被災域水辺環境調査（H26）報告書
		ハマナス	R2（水国：河川環境基図作成調査）	井土浦	R1年度水国報告書：河川環境基図
		アイアシ	R2（水国：河川環境基図作成調査）	名取川：-0.6～3.0km	R1年度水国報告書：河川環境基図

⑥ 総合的な土砂管理

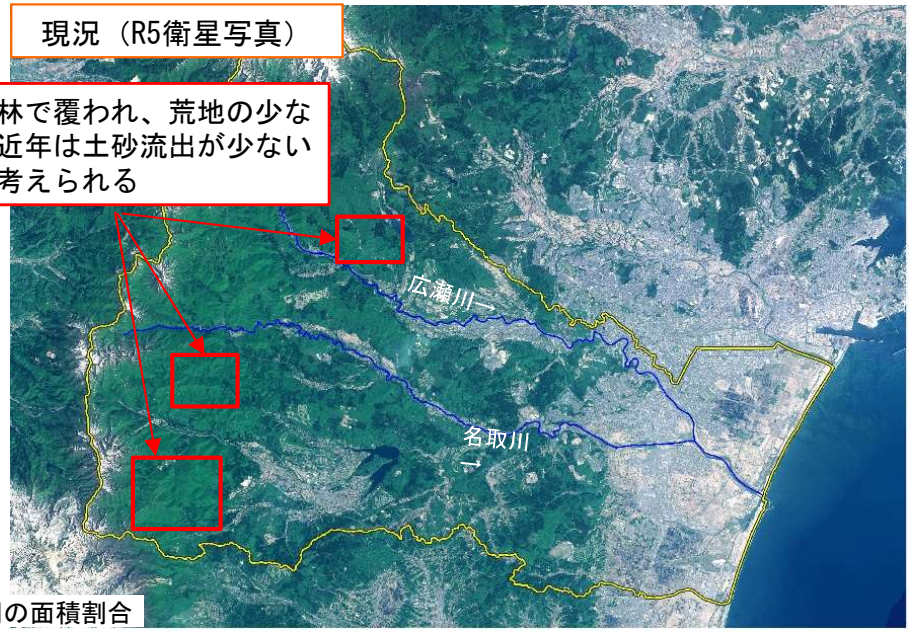
○山地（砂防）領域は、ほとんどを森林が占めており、荒地は少なくなっていることから、土砂流出量は比較的小さい。
○名取川流域の砂防堰堤は、優先度の高い砂防堰堤から整備が進められ、平成28年までに70基程度が整備されている。

荒地の把握と土地利用の変化

昭和51年の航空写真



現況（R5衛星写真）



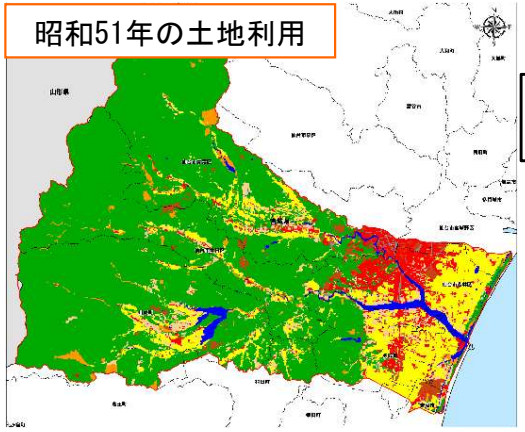
▼名取川流域の土地利用の面積割合

土地利用		田	その他の農用地	森林	荒地	建物用地	道路	鉄道	その他の用地	河川地及び湖沼	海浜	海水域	ゴルフ場
面積率（%）	S51	12.8	4.5	69.8	2.3	5.7	0.4	0.0	2.2	2.1	0.0	0.0	0.0
	R3	9.1	2.7	69.1	0.7	10.4	1.0	0.2	4.0	2.4	0.0	0.0	0.3

※小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても100とはならない。

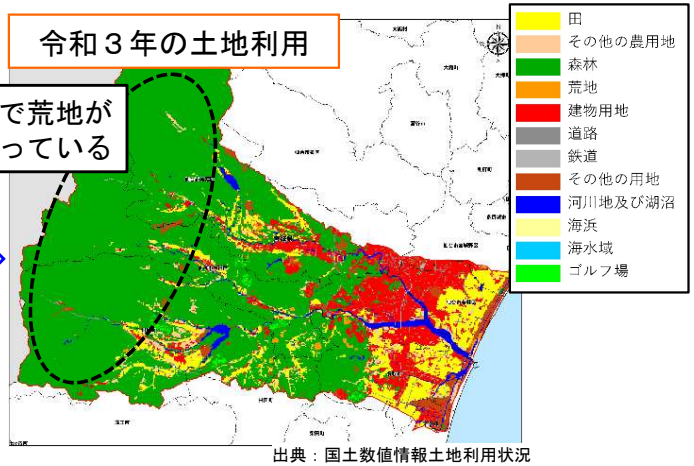
出典：国土数値情報土地利用状況

昭和51年の土地利用



出典：国土数値情報土地利用状況

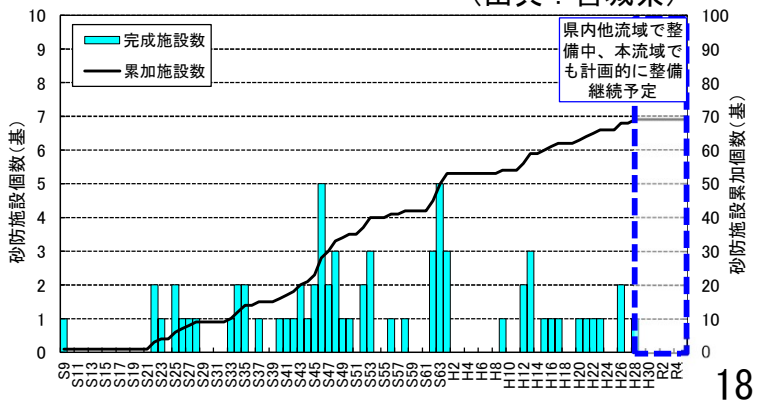
令和３年の土地利用



出典：国土数値情報土地利用状況

砂防堰堤の整備状況

（出典：宮城県）

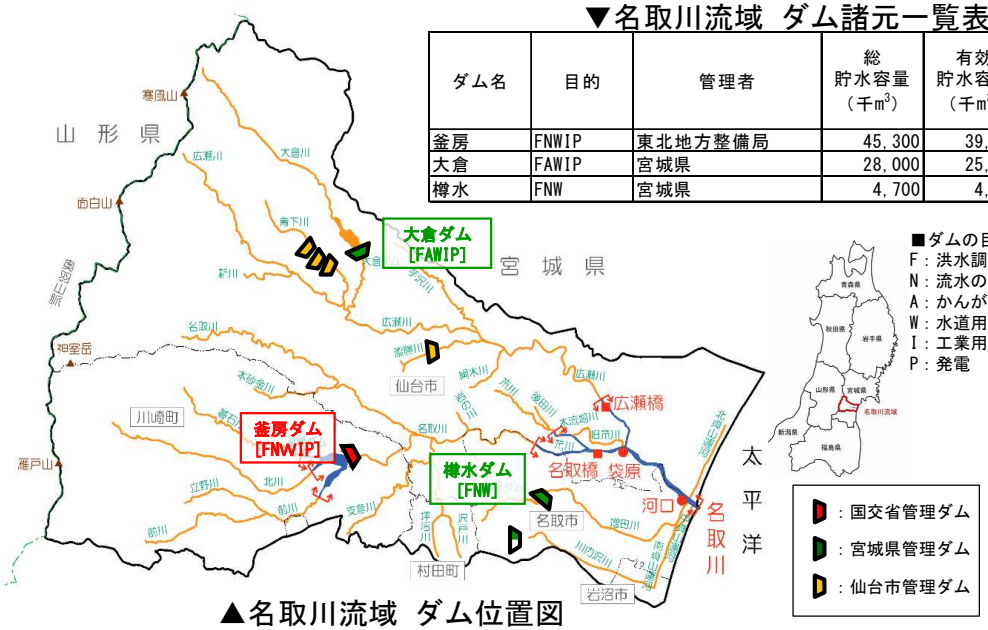


○名取川流域の多目的ダム３基のうち、釜房ダムは、平成元年の２度の大規模出水により堆砂量が増加し、平成３年までは計画を上回るペースでの堆砂が進んでいたが、貯砂ダム整備及び堆砂掘削により堆砂量を抑制している。

○大倉ダム及び樽水ダムは、ほぼ計画どおりの堆砂量で推移しており、今後も継続的にモニタリングを実施する。

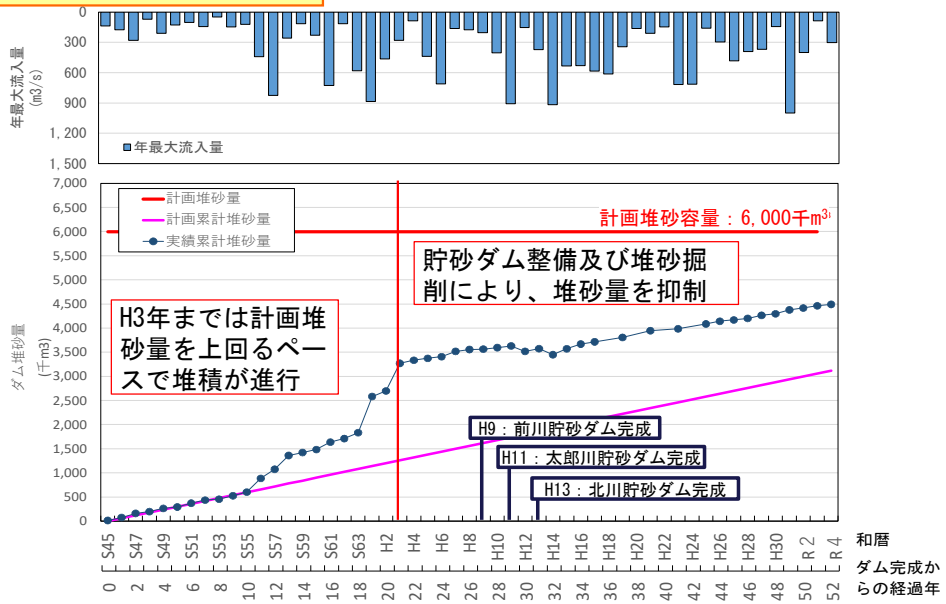
▼名取川流域　ダム諸元一覧表

ダム名	目的	管理者	総貯水容量（千m³）	有効貯水容量（千m³）	計画堆砂容量（千m³）
釜房	FNWIP	東北地方整備局	45,300	39,300	6,000
大倉	FAWIP	宮城県	28,000	25,000	3,000
樽水	FNW	宮城県	4,700	4,200	500

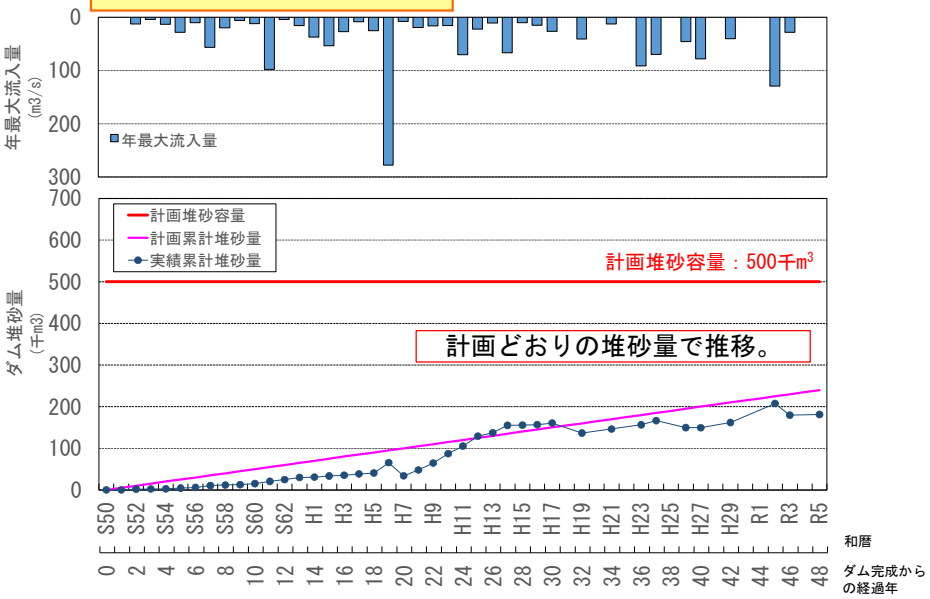


▲名取川流域　ダム位置図

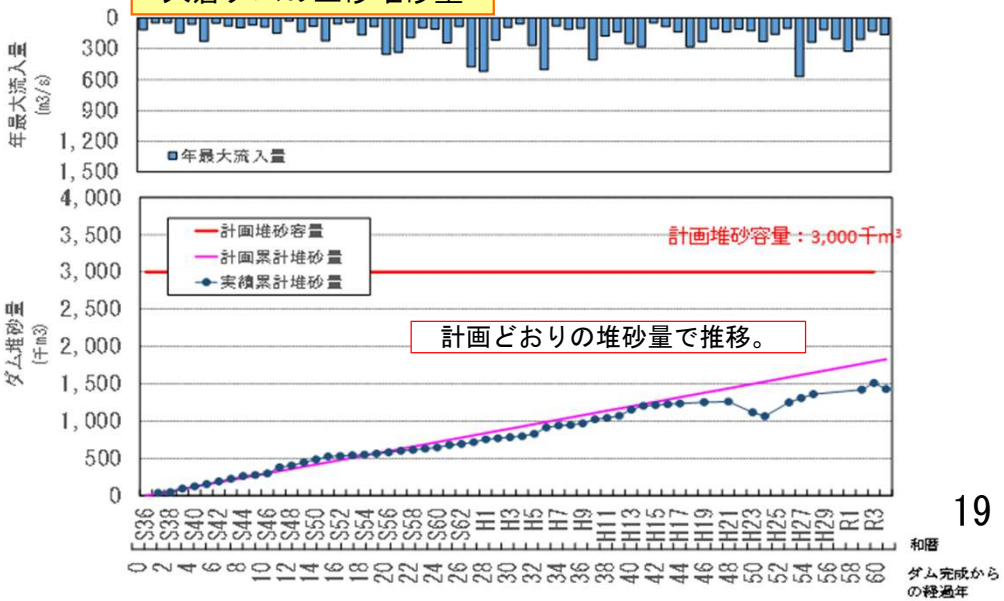
釜房ダムの土砂堆砂量



樽水ダムの土砂堆砂量



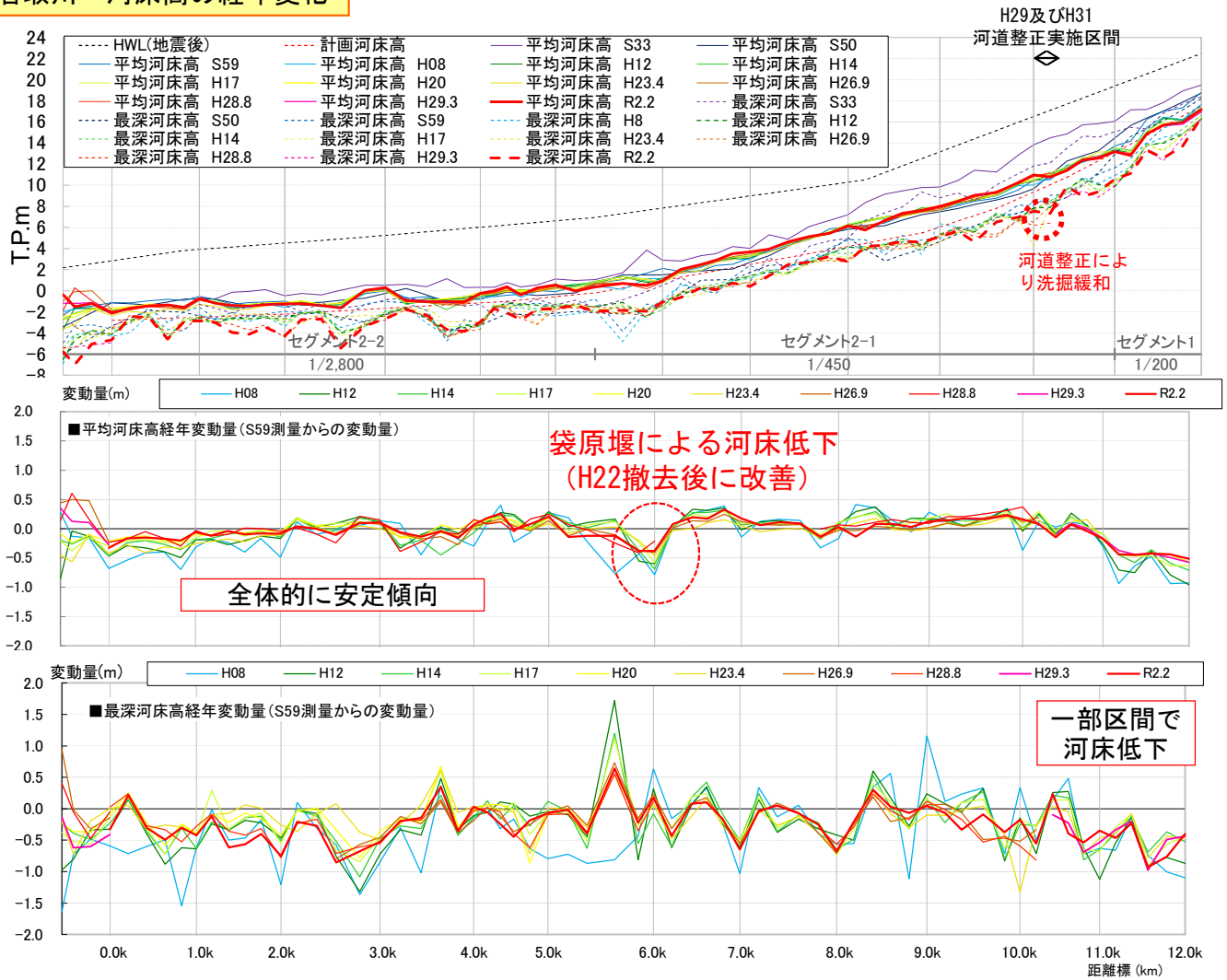
大倉ダムの土砂堆砂量



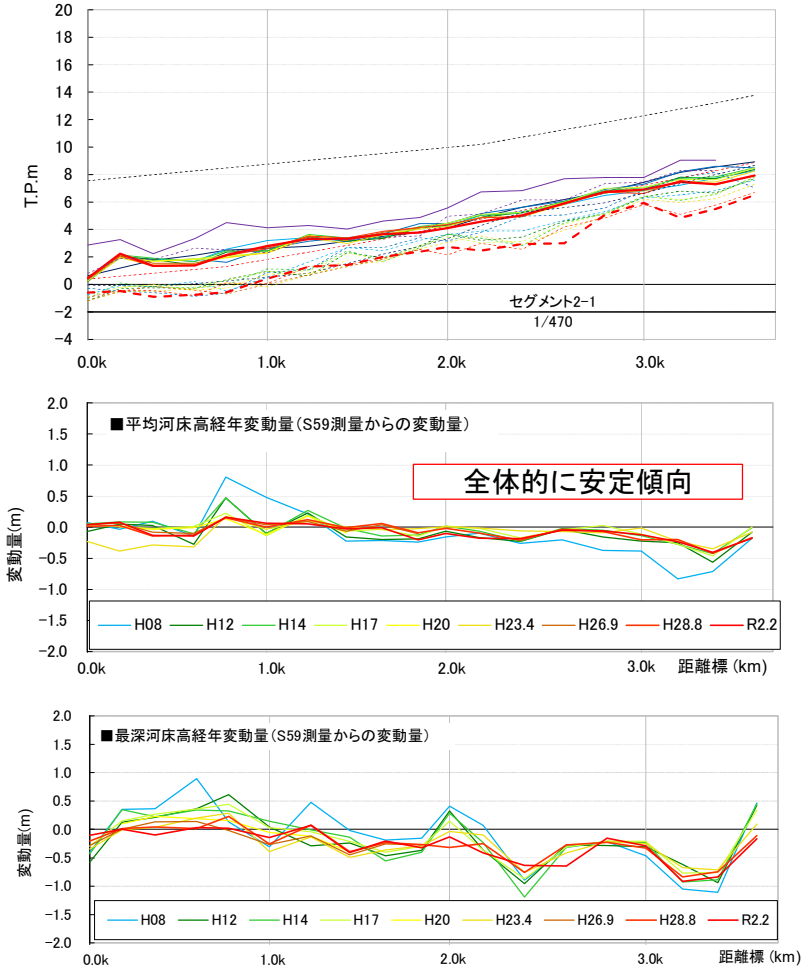
総合土砂管理　河道領域の現状（河床高の経年変化）

○名取川及び広瀬川は、出水等の影響により一部区間で最深河床高の低下が見られるが、平均河床高の変動量は30cm程度であり、全体的に安定傾向である。
○今後も継続して横断測量等のモニタリングを行い、河道の状況把握に努める。

名取川　河床高の経年変化

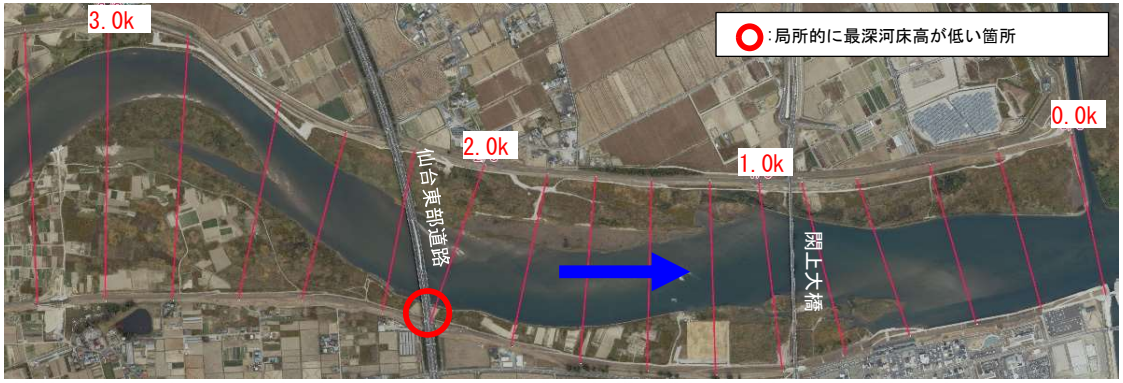


広瀬川　河床高の経年変化

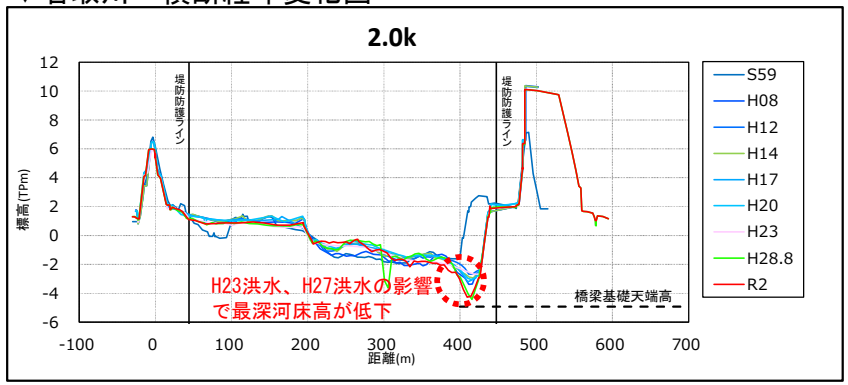


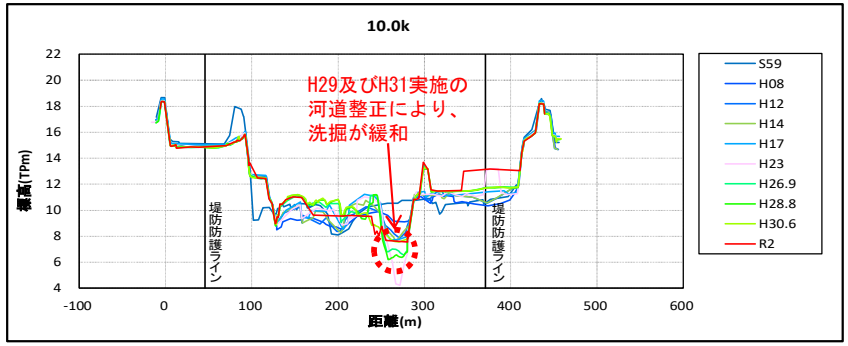
○名取川0.6～2.0k付近では、砂州の発達に伴い湾曲外岸側で局所的に最深河床高が低下している箇所が見られる。上流10.0k付近では河道整正により洗掘緩和傾向である。
○広瀬川はおおむね安定傾向であるが、直轄上流端付近でH23年以降徐々に最深河床高の低下が進行している箇所も確認される。

▼名取川航空写真（R2撮影）

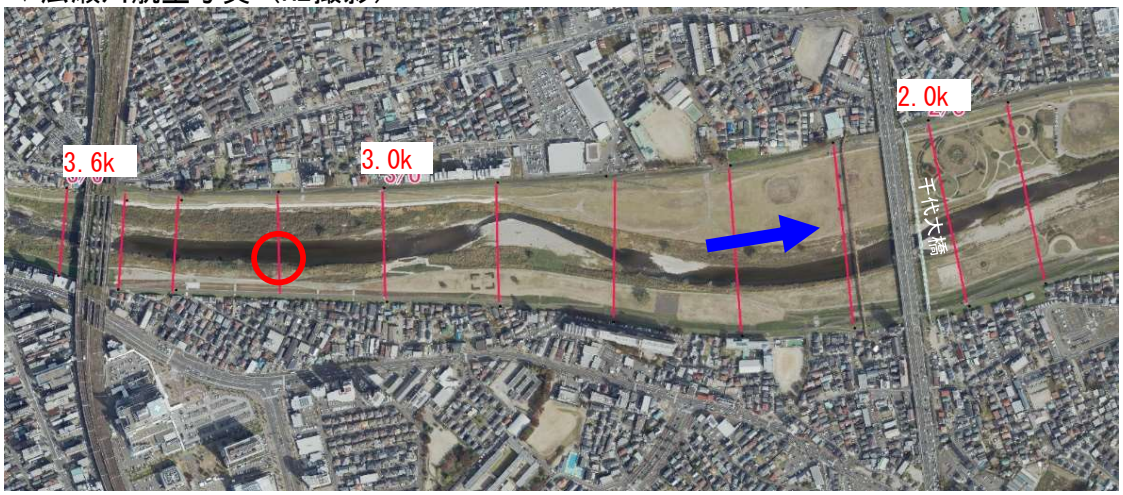


▼名取川　横断経年変化図

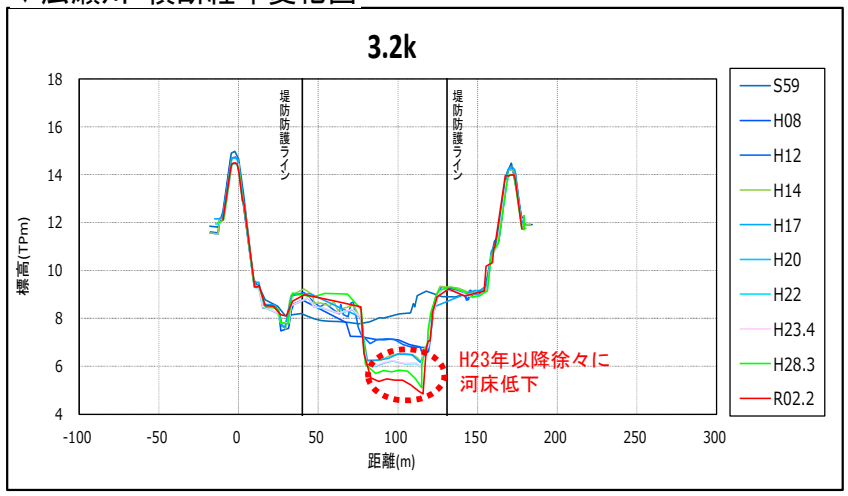




▼広瀬川航空写真（R2撮影）

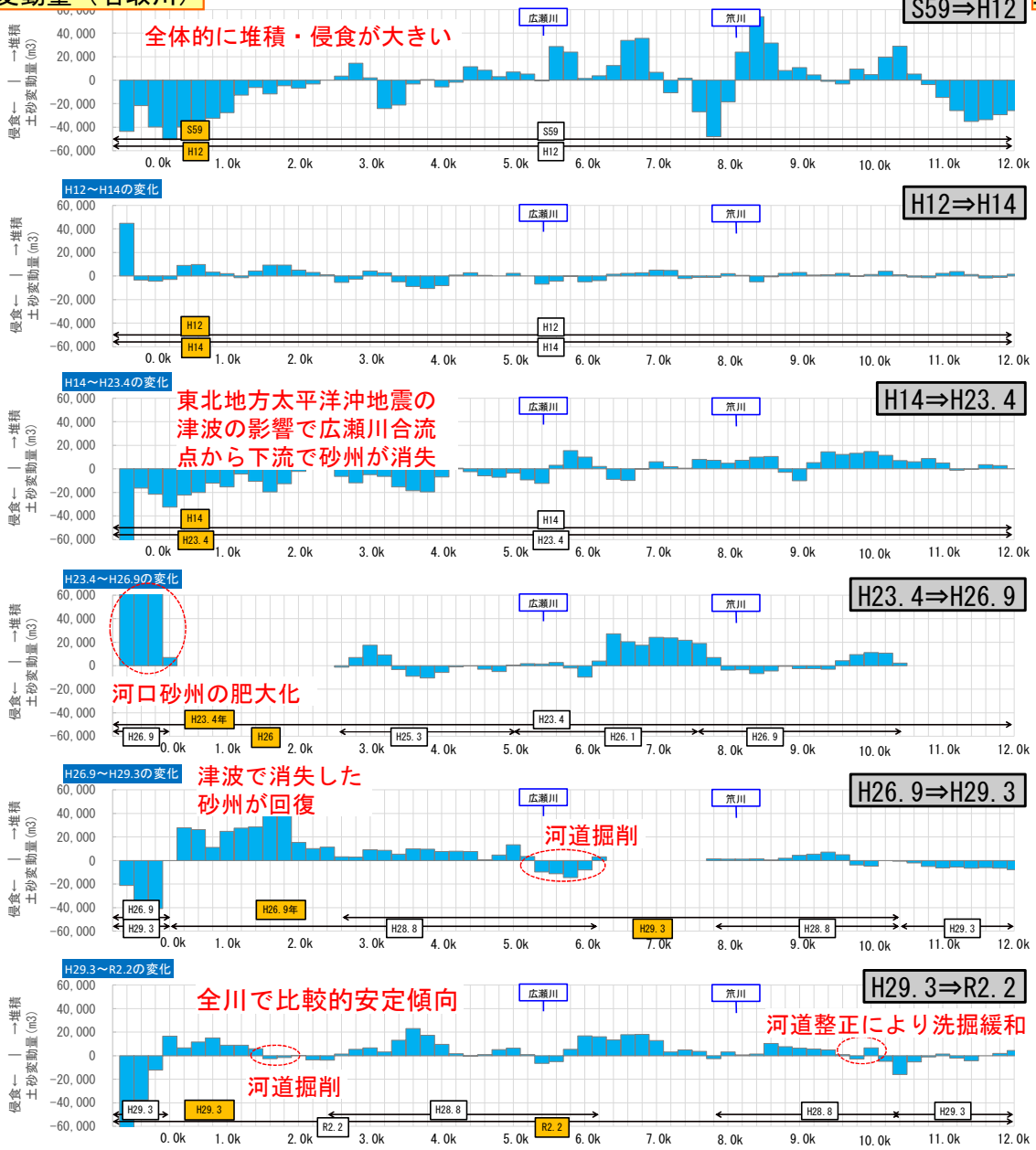


▼広瀬川 横断経年変化図

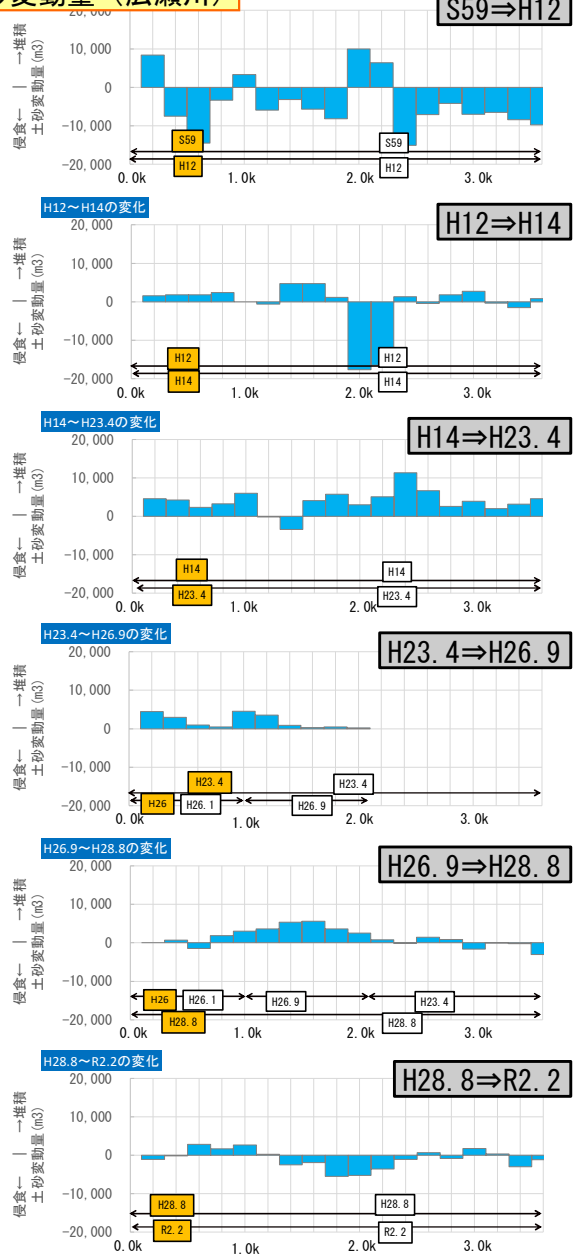


○昭和59年から平成12年頃までは、全体的に堆積・侵食が大きい。
○東北地方太平洋沖地震前後では津波の影響により名取川河口で砂州が侵食されたが、その後、砂州が回復した。
○令和元年東日本台風前後では名取川、広瀬川ともに大きな土砂変動は見られない。

土砂変動量（名取川）



土砂変動量（広瀬川）



平成14年７月洪水
名取橋　1,876m³/s
広瀬橋　　905m³/s

平成23年３月
東北地方太平洋沖
地震

平成23年９月洪水
名取橋　1,657m³/s
広瀬橋　　662m³/s

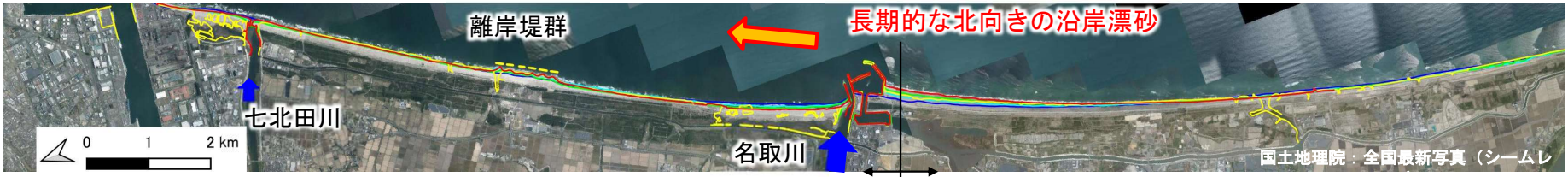
平成27年９月洪水
名取橋　1,514m³/s
広瀬橋　1,233m³/s

令和元年10月洪水
名取橋　2,554m³/s
広瀬橋　1,048m³/s

総合土砂管理　海岸領域の現状

○長期的な北向きの沿岸漂砂があり、昭和50年代から沿岸漂砂の連続性を遮る、漁港の防波堤の影響と考えられる侵食が名取川河口から北側で一部見られる。

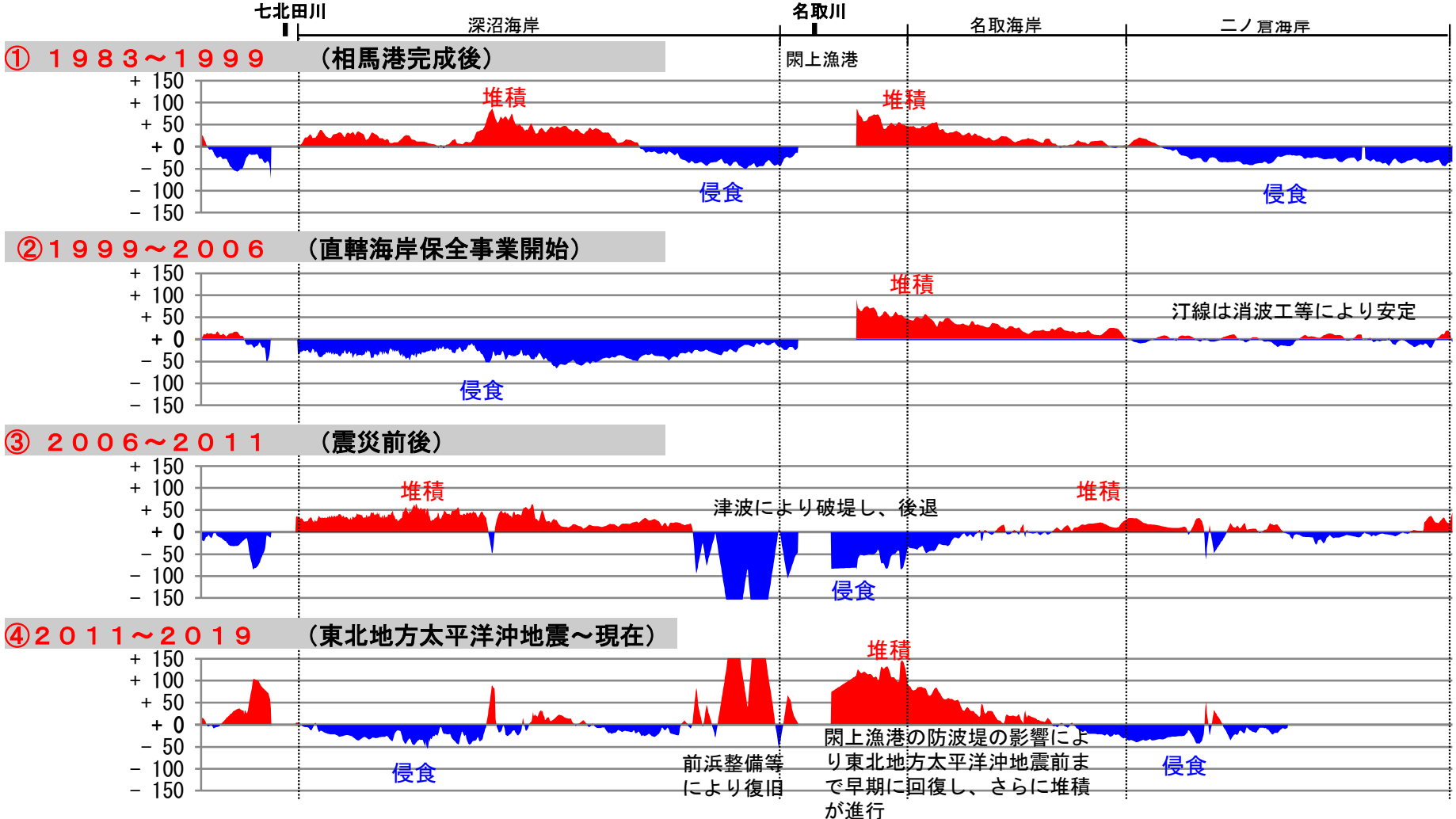
○東北地方太平洋沖地震の津波により汀線が大幅に後退したが、その後、名取川河口付近では堆積傾向にある。今後も継続してモニタリングを実施する。



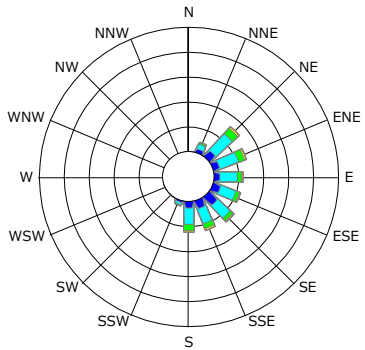
凡例（汀線）
- 1983年
- 1999年
- 2006年
- 2011年
- 2019年

▌仙台湾南部海岸の汀線変化（空中写真からの読み取り）

2023年10～11月撮影　2020年5月撮影



凡例 有義波高(m)	
	0～0.9
	1.0～1.9
	2.0～2.9
	3.0～3.9
	4.0～4.9
	5.0～



▲NOWPHAS 宮城中部沖（波高波向頻度図）

波向きはNE～Sが卓越

集計期間
2013(H25)～2022(R4)

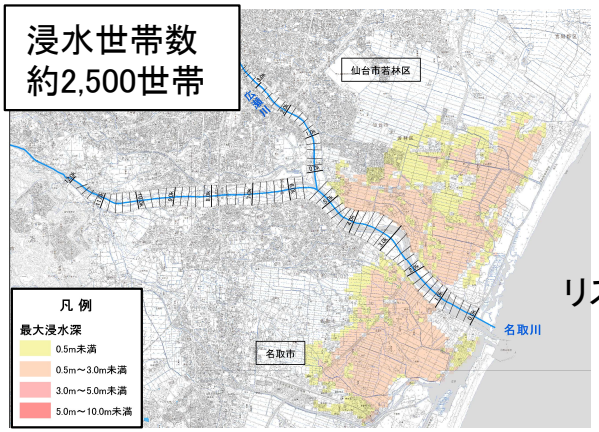
⑦ 流域治水の推進

○戦後最大洪水である昭和25年8月洪水に対し、気候変動（2℃上昇）の降雨量増加を考慮した雨量1.1倍となる規模の洪水が発生した場合、名取川流域では浸水世帯数が約30,000世帯（現況の約12倍）になると想定されるが、事業の実施により、浸水被害が解消される。

■気候変動に伴う水害リスクの増大

【目標①】
KPI：浸水世帯数　約30,000世帯⇒0世帯

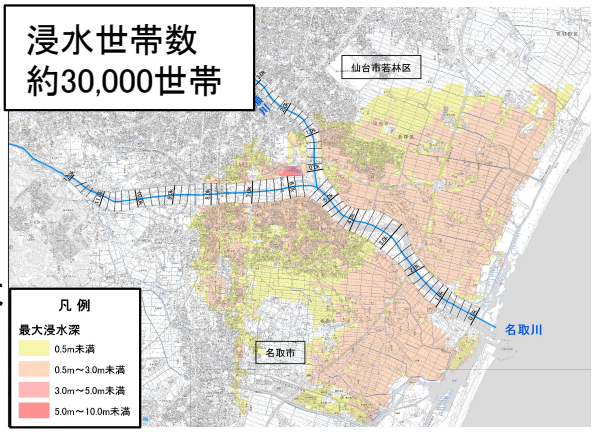
浸水世帯数
約2,500世帯



＜現状＞

リスク増大

浸水世帯数
約30,000世帯



＜気候変動考慮（1.1倍）＞

対策後

河道掘削等のハード整備に加え、下記に示すソフト対策・流域対策等も一緒に推進

浸水世帯数
0世帯

＜対策後＞

■水害リスクを踏まえた各主体の主な対策と目標

【目標①】気候変動による降雨量増加後のS25.8洪水規模に対する安全の確保

種別	実施主体	目的・効果	追加対策	期間
氾濫を防ぐ・減らす	国土交通省	約30,000世帯の浸水被害を解消	河道掘削：45万㎥ ＜現計画の2.5倍＞	概ね30年
	県、市町	水田貯留やため池の活用による流出抑制により浸水被害（外水・内水）を軽減	田んぼダムの取組拡大、ため池の活用	概ね20年
被害対象を減らす	仙台市	居住誘導区域内での新たな居住等に対する立地の適正な誘導や、既成市街地における浸水被害を軽減	立地適正化計画による適正な立地誘導	概ね20年
被害の軽減・早期復旧・復興	国土交通省、県　市町	要配慮者利用施設の利用者の円滑かつ迅速な避難の確保	要配慮者利用施設の避難確保計画策定及び訓練促進	概ね10～30年
	国土交通省、県　市町	防災行動を時系列的に整理し、自ら考え命を守る避難行動の推進	マイ・タイムラインの普及促進	
	市町	洪水ハザードマップの更新配布、防災意識の啓発	洪水ハザードマップの更新・配布、防災意識の啓発	

流域治水【名取川水系流域治水プロジェクト2.0】

氾濫を防ぐ・減らす

○気候変動を踏まえた治水計画への見直し
（2℃上昇下でも目標安全度維持）
＜具体の取組＞
・河道掘削、緊急河川敷道路
・川内沢ダム建設

○流域対策の目標を定め、
役割分担に基づく流域対策の推進
＜具体の取組＞
・排水機場整備
・雨水ポンプ場増強、雨水調整池・雨水幹線の整備
・水田貯留（田んぼダムの取組拡大）、ため池の活用
・公園貯留施設整備

○溢れることも考慮した減災対策の推進
＜具体の取組＞
・堤防強化

○多面的機能を活用した治水対策の推進
＜具体の取組＞
・樹木繁茂対策
・森林整備、治山対策

○既存ストックの徹底活用
＜具体の取組＞
・利水ダム等7ダムにおける事前放流等の実施・体制構築
・海岸における事業間連携を通じた土砂の有効活用
・既存ダムの効率的な運用検討

○インフラDX等における新技術の活用
＜具体の取組＞
・インフラDX（施策）における河川管理の高度化・効率化
（三次元点群データの活用等）

被害対象を減らす

○溢れることも考慮した減災対策の推進
＜具体の取組＞
・防災拠点等の整備
・止水壁の設置
・施設の高床整備

○溢れることも考慮した減災対策の推進
＜具体の取組＞
・立地適正化計画による適正な立地誘導

○民間資金等の活用
＜具体の取組＞
・グリーンボンド発行による防災環境都市づくりなどへの資金調達

被害の軽減・早期復旧・復興

○気候変動を踏まえた治水計画への見直し
（2℃上昇下でも目標安全度維持）
＜具体の取組＞
・危機管理型水位計及び簡易型カメラの設置

○溢れることも考慮した減災対策の推進
＜具体の取組＞
・洪水ハザードマップの更新・配布
・要配慮者利用施設の避難確保計画策定及び訓練促進
・マイ・タイムラインの普及促進
・自主防災組織の取組拡大
・防災意識の啓発
・災害時における応急生活物資の供給協定

○多面的機能を活用した治水対策の推進
＜具体の取組＞
・民間施設との協定による「緊急避難場所」「車両緊急避難場所」の確保

○インフラDX等の新技術の活用
＜具体の取組＞
・「水害リスクライン・洪水キキクル」普及・利活用促進
・e-ラーニング教材「大雨の時にどう逃げる」を活用した防災教育の推進